

1 地域でのつながりをつくるために、個人としてどう関わるか

| | 中央 | 小田 | 大庄 | 立花 | 武庫 | 園田 |
|------------------------------|----|----|----|----|----|----|
| あいさつ、声かけをする | 10 | 7 | 15 | 9 | 8 | 6 |
| ご近所さんや地域のことを知る | 8 | 3 | 4 | 4 | 6 | 5 |
| 助け合いの気持ちを持つ | 1 | — | — | — | — | 1 |
| しっかりと対話を重ねる | 1 | — | 3 | — | — | — |
| 身近な人と信頼関係を築く | — | — | — | — | — | 2 |
| 町会等の団体に加入する | 2 | 1 | 0 | 2 | — | — |
| 町会等への加入を促進する | 2 | 3 | 1 | — | 2 | — |
| 町会等に加入していない人ともつながりをつくる | — | — | — | — | — | 2 |
| 町会等に限らず、趣味などを通じてつながりをつくる | — | — | — | — | — | 8 |
| 大人から積極的につながりづくりを行う | — | — | 3 | — | 3 | — |
| 地縁の活動に積極的に参加してみる | 8 | 8 | 12 | 9 | 10 | 9 |
| 課題を解決する中でつながりをつくる | 4 | 1 | 2 | 4 | — | 3 |
| 他の人とのつなぎ役になる | — | — | — | — | — | 2 |
| 住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく | — | 3 | 4 | 2 | — | — |
| 地域でのネットワークをつくる | 1 | — | — | 2 | — | — |
| 団体(集まり)をつくる | 4 | — | 4 | — | — | — |
| コミュニティや集まる場をつくる | 1 | 1 | 4 | 1 | — | 4 |
| 地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催) | 2 | 1 | 3 | 2 | 8 | — |
| 子どもや若い世代と積極的に関わる | — | — | 1 | — | 4 | — |
| 様々な世代の人が交流できるようにする | — | 1 | 1 | — | 1 | — |
| 孤立しない | — | — | — | — | — | 1 |
| 孤立させない | — | — | — | — | 1 | 1 |
| 情報を積極的に得、発信していく | 6 | 3 | 7 | 6 | 3 | 9 |
| まちの良いところを発信し、共有する | — | — | — | — | 1 | — |
| 自分にできることを発信していく | — | — | 2 | — | — | — |
| 情報発信方法を教える | — | — | — | — | — | 1 |
| 他人や行政任せにせず、できることをする | 8 | 2 | 3 | 5 | 2 | 3 |
| 大人がしっかりする | — | — | 2 | — | — | 3 |
| ルールを守る | 1 | — | — | — | — | 1 |
| 地域の担い手を育成する | 1 | — | — | 2 | — | — |
| 行政のOBを活用する | — | — | — | 2 | — | — |
| 子育てに積極的に関わる | 2 | — | — | — | — | — |
| 学校に地域の人に関わる | — | — | — | — | — | 2 |
| 尼崎の歴史を次世代に伝えていく | — | — | 1 | — | — | — |
| 環境・美化に力を入れる | — | — | 2 | — | — | — |
| 健康を維持する | 1 | — | — | — | — | 1 |
| 資金を調達する | 1 | — | — | — | — | — |

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・挨拶、顔を知る（しかしよく分からない、大変そうで敬遠してしまう）
- ・朝のあいさつで友達になる
- ・とにかく近所でもいいから声をかける
- ・とにかく知らない人にでも、近所の顔見知りの人にでも、声をかける
- ・根気強く、子どもたちや若い人にあいさつをする
- ・挨拶運動を積極的に展開する
- ・顔を覚える、覚えてもらう
- ・できるだけ多くの方の顔を覚え、話かけをする
- ・コミュニケーション
- ・コミュニケーションをとること、挨拶をする等、目を見てきちんと言葉を交わすことが大切だと思った

ご近所さんや地域のことを知る

- ・地域のメンバーを知る
- ・隣近所の付き合いが大切。まずは「お隣さん」
- ・近所との付き合いを進める
- ・個人それぞれが関わっている近隣の付き合い、あらゆるグループやサークル等の繋がりを広げるために、地域との関わりを持っていくように
- ・地域を知る
- ・地域の活動拠点に向かう
- ・皆さんと仲良くする
- ・やはり、Face to Face の関係が必要（理想）だと思う

助け合いの気持ちを持つ

- ・困っている人の手助け

子育てに積極的に関わる

- ・子育てに積極的に参加する → 地域行事等の情報に接する機会が増える
- ・子育て参画

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・各種イベントには積極的に参加する（防犯パトロールは平日夜なので参加しやすい）
- ・できる行事に参加（できる限り、できることを見つけて参加していきたい）
- ・朝のラジオ体操（朝の挨拶）の参加。顔の見える関係に
- ・地域の盆踊りや行事に、一歩進んで足を運んでみる
- ・地域団体に参加する
- ・既存組織に加入すること
- ・スポーツへの行事参加
- ・防災訓練

町会等の団体に加入する

- ・自治会へ入る
- ・自治会、老人会等入会し、行事にもなるべく参加する

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・自分で探しに行く（集会所、掲示板、市報など）
- ・とにかく色んな場に出て行く
- ・色んな出会いの場に出かける
- ・自分のできることを考え、協力する
- ・自分の持っているもの“強み”を少しでも活かす（できない事は背伸びしない）
- ・協力できることを考える
- ・いつか自分に返ってくると思うこと
- ・出来れば役員も引き受けるようにする

コミュニティや集まる場をつくる

- ・自ら動き、話し合える場を作る仕掛けにしていく

地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催)

- ・町会の繋がりを高めるために、参加しやすいイベントを企画する
- ・全て or どれか特化したイベント等、まず興味を引かせる活動

課題を解決する中でつながりをつくる

- ・現在、役を引受けている以上は地域との繋がりを良くするため顔を覚えてもらい、何を日々しているか、子どもの見守りとか高齢者の見守りとか再々人とお会いするという事が大切かと思います
- ・認知症サポーター養成講座の開催
- ・見守りをこまめにする
- ・老人宅に訪問し、話しかける

情報を積極的に得、発信していく

- ・町会の行事を良く知ってもらう
- ・町会の活動内容を報告する
- ・PRをどうするのか（チラシを工夫して配布、スポンサー探し）
- ・発信する
- ・タウンミーティングを含め若い世代に SNS 発信
- ・自ら、集会所、公民館を調べて行ってみる

地域の担い手を育成する

- ・跡継ぎの問題点

しっかりと対話を重ねる

- ・従来の考えにとらわれずに仲間の意見をできるだけ多く聞くようにする。

団体(集まり)をつくる

- ・「おまつり隊」的グループを作り、リクエストがあれば町会・自治会のサポート
- ・趣味を通してグループをつくる
- ・趣味の活動
- ・自分の趣味を活かして、小集団活動していく

地域でのネットワークをつくる

- ・若い人、PTA と連携して何事も進めて行ければいいと思います

資金を調達する

- ・イベントを開催し資金の調達

ルールを守る

- ・自転車ルール、徹底されていない。個人個人で（自転車ルールの）バラつきがある

町会等への加入を促進する

- ・自治会や老人クラブに加入してもらう
- ・町会への加入を増やしたい

健康を維持する

- ・いつまでも自分自身元気で過ごせるよう気をつける

その他

- ・地域の参入をできるだけ多く持つ
- ・町会会長としてできるだけ各家を訪問する
- ・喜んでいただくように心がける。喜んでもらうととても嬉しい
- ・一人の力は小さいけれど、こつこつと努力することを続けて、前向きに明るく生きる（私自身）こと
- ・それぞれの事情があり、参加したくても出来ない人もいるので、自主性に任せるしかないと思う
- ・家族の理解を得る
- ・老若男女が共感できる「衣食住」
- ・つなげる仕掛け
- ・町会では組織はうまく活動しているのですが先の町会を担う人が見当たらないのが実情。このような役をしたくない人が多いのです
- ・町会長をしております。マンションの住人との交流が全くと云っていい程無いので困っています
- ・意見を色々聞きましたが町会に入ってくれない人がたくさんいるという事ですが、これを何とかいい方法を考えることが議題になると思う。何と言っても協力が一番大事なことと思う。皆が協力するよう、皆が協力する以外にないと思う。学校教育か家庭教育かこれも両方協力すれば事故の問題も非常に少なくなると思う
- ・民生委員、児童委員

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・声かけ。他者に対して無関心ではなく、色々な気づきをしていきたい。また、その気づきを必要に応じて行政につないでいきたい
- ・近隣の方とのコミュニケーションをはかる
- ・町会内、マンション内で住民同士のあいさつから、行事に参加を呼びかける。行事を通じて人と人との交流を深める。役員の顔が見えないことが多いので、参加しにくいので行事の時は訪問し、声かけをする。気軽に相談できる人間関係をつくる
- ・顔を見て声をかけ、笑顔であいさつをする
- ・町会内でのあいさつ、自己紹介から
- ・居住区域の中で出会う人同士、あいさつを交わし、できれば共通の話題を持って会話を
- ・近隣の方と仲良くなる

ご近所さんや地域のことを知る

- ・町会の役員を実際に知らない
- ・顔を売っていく（ヒューマンコミュニケーション）
- ・多様なイベントに顔を出して、まずはキーパーソンとつながる。色々な顔を持って出かけていく（仕事、趣味、住民など）

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・あいさつ回りと環境づくり。隣の人の顔もはっきりと分からないので、知り合いや地域のつながりをつくりたいが、環境がない。異世代交流ができる場をこれまでの祭りだけではなく、普段からの会議、企画立案等からできるだけ多くの住民へのアプローチをかける
- ・誘う、周りを巻き込む
- ・行事には声かけをする、まず参加

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・地域行事、地域活動に参加する
- ・何事も参加してみる
- ・お祭りに参加する
- ・本の読み聞かせなどのボランティア
- ・ボランティア活動
- ・参加から参画を積極的にする
- ・私は昨年まで、回覧板や掲示板の内容を自分に関係あると思って見た事はありませんでした。今はまず何を見るにも自分にできることはあるのか？と意識して見るようにしています。また、物怖じせず、実際に参加していこうと思っています
- ・PTA、婦人会、老人会等に入ってみる

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・仕事や介護があっても、できる範囲で居住地区の役を求められた時には関わり、動くこと
- ・「役」を依頼された時、できる範囲で関わる、引き受ける

コミュニティや集まる場をつくる

- ・世代間の交流をつくっていく

地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催)

- ・自宅開放。お茶会等をする

課題を解決する過程でつながりをつくる

- ・子育て、防災

情報を積極的に得、発信していく

- ・情報を共有する
- ・コミュニティ掲示板が上手く使われていない
- ・個人情報の使い方が不便である

様々な世代の人が交流できるようにする

- ・子ども、老人の相互理解

町会等に加入する

- ・自治会に加入する

町会等への加入を促進する

- ・自治会の加入を進める
- ・社会福祉協議会に全員が加入するようにする（強制はできない）
- ・自治会加入率を上げる努力

その他

- ・認知症サポーター養成講座
- ・各地区によってつながるための活動が多様であり、良い部分、悪い部分があると感じました。各地区の良いところを共有、見本にし、つながりの底上げや水準アップをはかることが大事と思いました
- ・変化に気付く
- ・積極的にボランティア関係（事業）、催し、美化、防犯に参加、協力してくれる方に何らかの形で優遇したい
- ・今日までの活動を生かし、一層の努力をしたい
- ・福祉協会と連協とのつながりが無い
- ・マンション内での自由開放の遊び場設置
- ・まず意識を持つ
- ・歴史とのつながり

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・隣近所の住民と顔見知りになりあいさつを交わす
- ・あいさつ（大人、子どもを問わず）の励行
- ・声をかけ、友人等になっていくこと
- ・声かけをしても悪く捉えないでほしい
- ・声かけなど言葉を大切にしたい
- ・もっと近所とのコミュニケーションをとっていくことが大事
- ・普段からなるべくコミュニケーションを取るようにする
- ・登校時など小まめに子どもに声をかける
- ・顔見知りを増やす
- ・あいさつを大人から子どもに（無視されても）日々大きな声でしていく
- ・年寄り同士声をかける
- ・家の建替えが多くなっているの、入居されると話しかけ、社協等の話をする
- ・地域としては無関心な人に対していかにコミュニケーションをとっていくかが課題
- ・日頃より地域内の人と喋り（行事、イベント等で）顔見知りの良好な関係を築く
- ・少年補導員の活動中、子どもたちに会った際は、積極的に声かけをしていきたい

ご近所さんや地域のことを知る

- ・地域のことを知る
- ・近所の方に関心を持つ
- ・役員の人を知る
- ・どんなサークルがあるのか

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・地域の清掃活動等に誘う
- ・催しごとには必ず誘い合う
- ・個人的には隣保活動を始めていく
- ・人に優しくする

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・地域でのイベント等には、積極的に参加しコミュニケーションの輪を広げる
- ・地域の活動に参加する
- ・色々な行事に参加していきたい
- ・イベント、行事に参加してみたら誘い合う
- ・関心のある無しに関わらず行事に参加する
- ・カラオケの懇親会、ラジオ体操、いきいき体操などに参加
- ・積極的に参加し楽しむ
- ・子どもと共にボランティア活動を行う
- ・シルバーの活動を通じて付き合いを広げたい
- ・ボランティア活動を通じての交流
- ・趣味のボランティアができたならやりたい
- ・家族を引っ張って行く

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・自主性を持って地域に関わる
- ・積極的に何事も参加していきたい
- ・つながるため行動する

コミュニティや集まる場をつくる

- ・地域の老人がコミュニケーションをとれる場所がほしい
- ・小集団グループの集合場所を確保する
- ・コミュニティづくりに協力する
- ・社協、育友会、補導委員さんたちの連絡会も必要

地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催)

- ・地域の行事としてみんなが参加できるようなことを考えていきたい
- ・カラオケ、食事会、おしゃべり会をどしどしやる
- ・集める

課題を解決する中でつながりをつくる

- ・見守り活動の充実
- ・子ども見守り活動から若い方々と交流をはかる

情報を積極的に得、発信していく

- ・地域での情報収集をし、他方面の団体や町会に発信していく。小さな規模でも人の声で広げていくことが大事
- ・地域との関わり方がわからない
- ・地域の魅力を伝える
- ・身近な関わりから、自分が活動している内容をPRする
- ・広報を読む
- ・知人への情報提供
- ・緊急時に対する住民の情報が少ない

自分にできることを発信していく

- ・自分ができると、やりたいことを言い続ける
- ・肩書きを外し、自分にできることをやっていきたい

尼崎の歴史を次世代に伝えていく

- ・尼崎市の歴史をつくってきた内容は、大切に次世代に伝えていく私たちに責任があると思う

しっかりと対話を重ねる

- ・前提なしの話し合いを積み重ねる
- ・人と人の関係が希薄になってきた。便利になってきた時代の流れをしっかり受け止めて困りごとなど含め「ことば」で共有していくことを大切にする
- ・問いかけは人と人で

子どもや若い世代と積極的に関わる

- ・もっと若い人の参加を願いたい

様々な世代の人が交流できるようにする

- ・若年層と高齢者との隔たりが大きい

団体(集まり)をつくる

- ・小集団グループの組織づくり
- ・グループ活動を行う
- ・集まりが必要と思った
- ・SNSを使ったグループのつながり

環境・美化に力を入れる

- ・清掃活動も行えればと思う
- ・まち、家の周りをきれいにする

大人がしっかりする

- ・子どもの見本となる行動を心掛ける
- ・子どもが早く大人になりたいと思うようにする

大人から積極的につながりづくりを行う

- ・子ども同士のつながりを親も知る
- ・子ども会などに積極的に参加させる
- ・ママ友とのつながりを大切に

町会等への加入を促進する

- ・自治会への参加の意識

その他

- ・隣保で仕組みを共有することから始める
- ・(夫へ) 今から脅しておく
- ・市政の役割などあまり話さず、社協を通してのボランティアはわかるが仕事が多すぎる。何事も単組の会長におんぶに抱っこで仕事が多すぎます
- ・マンションに入ることができない(オートロック)
- ・私の参加している太鼓グループは高齢のためメンバーが足りなくなっている
- ・集合住宅のため、住民間のつながりが無い
- ・台風等の折に独居老人に連絡ほしい
- ・固定化された組織の中にはなかなか入りにくい、今後は覗いてみたい
- ・地域の自治会の役員をして地域活性化の取組をしています
- ・進んで社会参加できる、または参加しやすい雰囲気になる必要があると思いました
- ・社協で取り組む、喫茶、体操など、また、清掃活動等お誘いする、地域で回覧をするなど
- ・ペット問題に悩む人たちへの相談場所をつくる

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・顔を覚え、あいさつをする
- ・あいさつのできる人間関係を
- ・声かけをする
- ・お隣さんと仲良くする
- ・良い近所付き合いをする
- ・ご近所の方から話をする
- ・何でも気軽に頼み、頼まれる人間関係
- ・顔見知りになる
- ・常日頃心掛けていることは、地域住民の方々へ笑顔であいさつをすることです。特に若手世代は、人とのつながりを嫌う方が多いので、まずは自分から積極的に声かけをしています

ご近所さんや地域のことを知る

- ・まず地域に興味を持つことが大事
- ・興味を持つ
- ・できるだけ地域に関心を持ち、自分がこの尼崎で暮らしていくためには、どんなつながりが大事か、もう一度自分自身を振り返ってみます
- ・同じ思いの人を見つけてつながっていく

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・他人にきっかけを与える
- ・個人にゆとりがない → こちらから働きかける
子育てで生活の負担が大きいと、他人のことをするゆとりがない

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・色々な行事にできるだけ参加する
- ・参加をしてみることから始める
- ・色んなところに参加する
- ・積極的に地域の活動に関わる
- ・地域の団体、イベントに参加
- ・地域のイベントに誘い合わせて、参加する
- ・積極的に参加することが必要
- ・地域でやっているイベントに積極的に参加することにより、人のつながりをつくる
- ・自己責任において、参加できることから参加するのが、第一歩だと思います

町会等の団体に加入する

- ・地域の町会に入ること
- ・個人と個人のつながりが大事。そのためには、町会に加入したり、婦人会、老人クラブ、子ども会、見守りなど、どこかに加入・所属した方がよいと思います

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・自ら動く
- ・お手伝いできることがあれば積極的に
- ・自分のできることからする
- ・一歩踏み出すことが必要
- ・役割を持つ

コミュニティや集まる場をつくる

- ・「場」づくりのため、あらゆる手立てを考え、実践していく

地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催)

- ・楽しみとしての地域参加
- ・楽しいから関わっている

課題を解決する中でつながりをつくる

- ・子どもや1人暮らしの人などへの声かけ
- ・子ども、老人に対する見守り
子どもにはお互いをよく知ってもらう
老人にはお互いに支えあう仕組みをつくる
- ・子どもの身の回りの見守り。道を歩けば車も多く、大変危険が多い。交通ルールを守って安全な社会をつくりたいと思います
- ・マンションの住人同士で地域の子どものを守る

情報を積極的に得、発信していく

- ・個人の地域でのニーズを発信する
- ・個人の技能、できることを発信する
- ・自分の得意分野、できることをさり気なく発信し、相手からのコンタクトを待つ
- ・自分の得意分野を発信して、つながる機会を持つ
- ・つながり(団体)の存在を知ってもらう
- ・仲間づくり。掲示板。SNS

地域でのネットワークをつくる

- ・横のつながりをつくる
- ・ヒューマンネットワークの強化

地域の担い手を育成する

- ・後継者がいなくて困る
- ・後継者問題。今の時代ほとんど成り手がいない

行政のOBを活用する

- ・行政のOBの方は積極的に参加すること
- ・行政等のOBの活用をすすめたい

その他

- ・協力したいがどこへ行けばいいかわからない
- ・会館をもっと利用して欲しい
- ・他人の世話をする人が減ってきている
- ・住まいがマンションなので加入していない
- ・子どもの役員はやってみた
- ・餅つきの技術、技能の継承
- ・理解は無理だが認めること
- ・顔を知っている人が訪問した場合、安心

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・あいさつをする
- ・身近な人にできるだけあいさつをする
- ・まずは、あいさつをして町会に入ってもらおう
- ・顔見知りを増やす
- ・声かけ
- ・つながりづくりの入口は「声かけ」から始まる
- ・積極的に話しかける
- ・近所とのコミュニケーション

ご近所さんや地域のことを知る

- ・隣近所の人に興味を持ち、あいさつをする、話をする
- ・中学校内のボランティアをしているので、それを続けて地域とつながっていきたくいです。身近なつながりから不登校とかいじめ等の話を他の家の話でも意識を持って、助け合いを努めていけたらと思います
- ・自分の住む地域（地区）に関心を持つ（自治会単位）
- ・人とつながることを面倒くさいと思わないこと
- ・井戸端会議をしながら、自分のできることをする
- ・仲間を探す

子どもや若い世代と積極的に関わる

- ・若い世代を巻き込み、色々な世代が関わる地域をつくりたい
- ・子どもたちとハイタッチできるよう努める
- ・小学校、中学校、高校等の内部ボランティア参加から地域へ（図書室整理、安全パトロール、PTA）
- ・学校で学んだことを実践する

大人から積極的につながりづくりを行う

- ・子どもだけでなく、大人こそが積極的に行うことが、地域のつながりづくりとなること分かった
- ・大人が積極的に関わる
- ・あいさつなど声かけを大人からする

孤立させない

- ・閉じこもりを減らす

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・祭りなど地域行事に参加、世代間交流
- ・地域の行事には積極的に参加し、役割も引き受ける
- ・親子で地域行事に参加する
- ・初詣や盆踊りなどの行事に参加したい
- ・行事や活動に積極的に参加する
- ・積極的に行動する
- ・自分の特技を活かして何かプログラムに参加する
- ・親子で参加する
- ・地域の掃除に参加し、ご近所の人とも話をする
- ・地域で行われる行事や業務を受け身でなく、積極的に参加し、役割を担う。住民同士が双方向でサービスを提供し合うのが理想

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・地域住民の「役割」意識の欠如
- ・定年退職後、自分が地域のことについて何かしなくてはと思った

地域の人が集まるきっかけをつくる(イベント開催)

- ・飲み会を企画する
- ・祭など、子どもから高齢者までみんなで交流できる楽しいイベントを共有する
- ・行事や活動を企画してみる
- ・地域の行事や活動に積極的に参加し、その場で色々な方々とお話をし、色々な意見をお聞きする。今まで吸収した意見を活かせるような行事や活動を行っていき、継続していく
- ・個人が参加する祭などのイベントは？
- ・何か地域でやってみる
- ・色々な人との出会いが楽しく、自分を豊かにしていく
- ・地域でのつながりや関係をつくるため、地域イベントに参加する

情報を積極的に得、発信していく

- ・情報収集→情報発信
- ・口コミを広げる
- ・アンテナを張る

まちの良いところを発信し、共有する

- ・アピールできるポイントをつくり、共有する
水、蛭、民話、農作物など。武庫川はアクティビティに最適

様々な世代の人が交流できるようにする

- ・年代間の手伝い

町会等への加入を促進する

- ・町会員を増やす
- ・自治会への入り方

その他

- ・マンションと家とのつながりは？
- ・認知症講座を受け、理解を広げる。徘徊できるまち
- ・武庫地域の特徴

(町会等の問題点)

- ・自治会として年配のイメージ
- ・個人で入らず、世帯単位（若い人は入らない？）
- ・自治会に参加する機会がない
- ・参加できる日時でない
- ・会に入らなくても不便がない
- ・役職の役割を担う人が固定化している
- ・役員になりたくない人が多いのが課題
- ・自治会長の任期を1年 →複数年への説得。1年では内容の理解不足
- ・老人会との会合の開催
- ・尼崎独自の自治会は驚きました
- ・高齢化が進み、福祉協会の継続が難しい
- ・若い方は自治会でなく PTA
- ・企画してもメンバーがいつも同じ

(地域との関わりが少なくなった理由)

- ・子育てが一段落して仕事が忙しい
- ・PTA から卒業してしまった
- ・困ってないから地域の必要性が？
- ・古い地域で新しい住民とのきっかけが難しい
- ・子育てが一段落し、地域との関わりが少なくなった。接点をつくるのが大切だなと思う

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

個人としてどう関わるか

あいさつ、声かけをする

- ・とにかくあいさつから始まると思う
- ・近所の人とのあいさつを大事にし、顔見知りをつくる
- ・自分から動く、あいさつする
- ・地域の人に声かけを心掛ける
その中から親しい方を見つけ、一緒に地域行事にも参加していく
- ・あまり見たことない人でも近所の人に声かけをする
- ・勇気を出して声をかける

ご近所さんや地域のことを知る

- ・地域のことを知るようにする
- ・近所の方を知る、また知っていただくことでつながれると思う
- ・もう少し近所の人を知る
- ・他者への関心、好奇心、主体性
- ・日頃から人々の行動や生活に気を遣ってみる

身近な人と信頼関係を築く

- ・家のことまで気軽に話せるような関係を築く
- ・直接会って話す

孤立しない

- ・1人で考えない、孤立しない

孤立させない

- ・1人暮らしのお年寄りにおかずのお裾分け

助け合いの気持ちを持つ

- ・地域での存在意義として（頼り、頼られる）

地縁の活動に積極的に参加してみる

- ・地域での行事に参加して、地域のこと、地域の人のことを少しずつ知る
- ・ラジオ体操に参加する
- ・地域の行事に積極的に参加する
- ・積極的にコミュニティに参加する
- ・集まりがあれば外に出て行くようにする
- ・定期的な集会に参加する
- ・子どもの見守りをする
- ・まちづくり活動に参画する
- ・何事も参加してみる

町会等に参加していない人ともつながりをつくる

- ・町会に参加していない人とのつながり
- ・町会に参加していない人の防災、防犯に気をつけてあげる

町会等に限らず、趣味などを通じてつながりをつくる

- ・趣味を通じての仲間づくり
- ・趣味や介護でつながる
- ・町内会だけでなく趣味などの集まりがあれば良いのではないか
- ・NPOの活動などを発信していきながら、ネットワークづくりを進めていく
- ・小さなネットワークをたくさんつくる
- ・家から出るきっかけをつくる
→ママ友とのお買い物、子どもたちと一緒に公園に行く
- ・身近な人と話し合い、やってみることを決め、計画し実行する
(例：瓦宮ジャズフェスティバル)
- ・小グループで活動できる

他の人とのつなぎ役になる

- ・ハブになる人になる
- ・色々な年代の人と関わりを持つ

他人や行政任せにせず、できることをする

- ・行政に全てを期待しないで、自分たちでできることからスタートすることが自立の出発点になる
- ・自分ができることを負担にならない程度でする
- ・ボランティア等に参加

コミュニティや集まる場をつくる

- ・コミュニティの場づくり、行事開催
- ・開かれた場所をつくる
- ・子ども会をつくる
- ・勉強会をもつ

課題を解決する過程でつながりをつくる

- ・同じ問題を共有すると、寄り合って協力し、団結できる
- ・地域課題解決のため協力する
- ・同じ問題を持つものが、寄り合って協力することが理解できる

学校に地域の人に関わる

- ・学校に地域の人に関われる（例：学校の1年生のスタートアップ支援をボランティアがやる）
- ・学校のつながり

情報を積極的に得る

- ・情報を集める（口コミ）
- ・情報の共有
- ・情報を得る努力（市報、SNS等で意識して受け取る）、また情報の発信をする
- ・たくさんの人と友達、知人になり、情報を集めることが大事。お互い気心が知れると話が弾む
- ・新聞の良い意見を参考にする
- ・新聞やテレビを見て情報を得る

情報を発信する

- ・会報づくり
- ・各駅に案内板をつくる
- ・ネットを利用する

情報発信方法を教える

- ・アイパット教室を増やす（PR）

大人がしっかりする

- ・大人が子どもにつながるの大切さ（助け合える、犯罪を抑止する）を責任を持って伝える
- ・大人は子どもの手本となるよう交通マナー等をしっかり守る
- ・各家庭で規範意識の教育を行う

ルールを守る

- ・すでに決まっていることを守る

健康を維持する

- ・地域に参加するには本人が健康であること

その他

- ・「住民としての義務」として対応すべきである
- ・認知症サポーターを養成する
- ・認知症になっても暮らしていける地域づくりを提案していくことで、地域の関心を高めていくきっかけをつくる
- ・会員を増やす
- ・時間の節約
- ・コーポラティブハウス
- ・子どもの手が離れると、地域との関わり合いが少なくなる

2 地域でのつながりをつくるために、地域（町会、市民団体など）としてどうすればよいか

| | 中央 | 小田 | 大庄 | 立花 | 武庫 | 園田 |
|------------------------------|----|----|----|----|----|----|
| あいさつをしやすい環境をつくる | 3 | 3 | 5 | 4 | 4 | 3 |
| 町会等に参加していない人にも気を配る | — | — | — | — | — | 3 |
| 地域の行事やイベントに参加する | — | — | 3 | — | 2 | 1 |
| 地域課題に取り組む中でつながりをつくる | 10 | 4 | 6 | 3 | 3 | — |
| 町会等への加入を促進する | 2 | — | 2 | — | — | 1 |
| つなぎ役となる | — | — | — | 1 | — | — |
| 住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく | 9 | 3 | 2 | 6 | 2 | 2 |
| 地域でのネットワークをつくる | — | 1 | 5 | 1 | 3 | — |
| 地域の人が集まる場をつくる | 7 | 4 | 6 | 4 | 3 | 7 |
| 学校を拠点として活用する | — | — | — | — | — | 6 |
| 地域の人が集まるきっかけをつくる | 11 | 9 | 13 | 13 | 14 | 5 |
| 地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる | 8 | 5 | 3 | 9 | 1 | — |
| 興味のある分野に参加できるようテーマ別の活動を増やす | — | — | — | — | — | 5 |
| 個人や団体の努力を後押しする | — | — | 1 | 1 | — | 2 |
| 地域の情報の発信方法を工夫する | 10 | 7 | 11 | 5 | 3 | 10 |
| まちの良い点を積極的に発信する | — | — | — | — | 1 | — |
| 活動への参加の方法を知らせる | — | — | — | — | — | 1 |
| 地域の担い手を発掘・育成する | 4 | 1 | 1 | 1 | 5 | — |
| 地域の人を持っている能力を活かす | — | — | — | — | — | 2 |
| 地域の人材の協力を得る | — | — | — | — | — | 2 |
| 特定の人が高負にならないように役割を分担する | 2 | — | — | — | 4 | — |
| 既存の仕組みに捉われずに対応する | — | — | 1 | — | 1 | — |
| 地縁の活動を見直す | — | — | — | — | — | 3 |
| 資金を確保する | — | 1 | 3 | 2 | — | — |
| 子どもや若い世代とのつながりを積極的につくる | 1 | — | 9 | 4 | 4 | — |
| 子どもに地域への愛着を持たせる | 1 | 2 | 1 | — | — | — |
| 企業や学校等と連携する | — | — | — | 5 | — | — |
| 学校教育と連携する | — | — | — | — | — | 2 |
| 安全な環境をつくる | — | — | — | — | 5 | 4 |

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・あいさつをする
- ・近所づきあいを心がける、顔を覚える
- ・仲間づくり

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・活動、啓蒙、地域活動を知る
- ・自分達でできる身近なことから実践していく
- ・住民の趣味や要求を把握する
- ・参加してこない人へのアプローチを強化する
- ・行事に参加してもらえるよう呼びかける
- ・イベントやサークルに定期的に誘う
- ・色々な事業に参加してもらい働きかけを（梅みそ作り、映画会、着付け教室、完足）多勢に参加してもらいお願いをしている
- ・一人の小さな力が少しでも多く集まって大きな力になるという事を、若い人達にも子ども達にも伝えていきたい
- ・組織の長を通じて声かけ

子どもや若い世代とのつながりを積極的につくる

- ・若い方の参加を推進する

地域の人が集まる場をつくる

- ・誰でも集える広場をつくる
- ・色々な出会いやつながりの場をつくる
- ・皆が集まれる場所を町会が提供する
- ・場づくりを行う（スポーツ、ゲーム等）
- ・子どもの居場所、親子の広場
- ・つどいの広場（子ども、親子、年代問わず引きこもりがちな人等）
- ・きっかけ作りとしてアメを配る（参加したらクーポン券がもらえる等）

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・行事催開催（新年会、清掃、歩こう会 etc.）
- ・地域のイベントを通じて接触の機会を増やす（後継者の育成が必要）
- ・サラリーマンでも参加できる行事、また大人と子どもと一緒にできる行事をする
- ・地域ごとのイベントなどを通して意見交換
- ・役員以外の方が参加、協力してくれるイベント
- ・楽しい行事等を考える
- ・地域運動会、盆踊り。若者とのつながり
- ・単調が合同で一つの行事を開催し交流を密にする
- ・市と連携し、興味を引く集まり（尼いも会みたいな）

地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる

- ・誰もが参加しやすい会の雰囲気
- ・たくさんの方が関わりを持てるような工夫をする
- ・サラリーマンでも参加できる工夫、転勤族へのアプローチ
- ・年配の方々やお身体の不自由な方とも交流できる機会が必要である
- ・他地区のイベントへ招待する、見学する
- ・できるだけ多くの人が出かけやすいように、土日でも行政と話や行事ができれば若い方も地域に入りやすくなるのではないかな？
- ・個人個人が参加しやすく、声かけや挨拶、交流できる場を知ったりつなげる

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・この様な活動に参加したいと思っている個人に対して、アシストをしてあげるシステムが必要と思う（掲示板・回覧板・インターネットなど）
- ・町会の広報。会員を増やすためにも町会外の人にも活動内容が見えるように
- ・つながるための情報を集約・整理する
- ・各種イベントのアピールを積極的に行う（宣伝不足が考えられる）
- ・町会として実施する各事業に多くの人に参加するようにPRする
- ・個人でできる活動のフォロー、PR等
- ・情報アクセスのしやすさ
- ・民生委員の活動を周知（住民に）
- ・会則を配り地域への興味
- ・可視化。イベント等の準備スタッフ募集、活動報告を回覧板で知らせる
会長らは、町内の人に挨拶して顔を覚えてもらう（大変？）

地域課題に取り組む中でつながりをつくる

- ・「子育て」「見守り・防犯」は重要な要素だと考える
- ・東南海地震が予想される中で、地域防災をどのように考えていくのか
- ・防災マップの作成、地域での周知、各人の役割分担、歩けない人等の情報共有、地域での防災訓練
- ・三月に一度、町内の民生員、町会役員で各家庭を訪問してまわる
- ・防犯パトロール
- ・老人給食 ⇒見守り。コミュニケーション
- ・町会、老人会、民生等と一緒にあって、子ども、一人暮らしの人の見守りができれば
- ・個人やグループで解決困難なことが生じたときに、地域を通じ問題解決を考えていく
仕組みを作ることが必要
- ・地域で課題を抱えた人の存在を知る
- ・近所の公園などの掃除

地域の担い手を発掘・育成する

- ・世代交代が必要。上手く引き継げるように後継者の育成
- ・次期リーダーの育成 ・跡継ぎの問題点
- ・情熱、強いリーダーシップを持つ人物が必要
- ・PTA等、既設の連携を深耕に次期の担当者を育成する

特定の人が重荷にならないように役割を分担する

- ・負担減
町内会等で、コピーや配布等、雑務だけする役を作ることで会長の負担減。人数が増えるので可視化にもなる
- ・町会の仕事を多くの人に助けてもらう

子どもに地域への愛着を持たせる

- ・子どもの時から地域に愛着を持つ機会を

町会等への加入を促進する

- ・震災やさまざまな災害があった時、自治会に入っているのと入っていないのでは救援物資や罹災証明書等で差が出る
- ・震災や大きな災害があったとき、自治会に入っていないと困ることになる

その他

- ・依頼をまめにする
- ・住み良いまち
- ・子どもがらみの事故の見守り⇔責任？
- ・団体に加入して仲間づくりをする
- ・団体加入して参加をする

(町会等の関係)

- ・協会ごとにとり組を考える
- ・連協として一年間のスケジュール（行事予定）は結構たくさんあるのですが、何か行事をするのにも費用が発生します
- ・自治会が補助を行い、グループを育てる
- ・単協が合同で1つの行事を行う
- ・現状のオープン化と問題の共有化
- ・地域の基礎である自治会の活動を活発化させる。自治会費を取るだけのところは辞める人が増える
- ・会員の拡充。自治会、老人会
- ・現状をふまえ、打開策を考えより良い方法で続けていく

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・地域での声かけをする
- ・地道な声かけ
- ・顔の見える関係づくり

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・引きこもりの人を普段の見守りで催しに誘い、参加していただく
- ・キーパーソンから巻き込む
- ・行事に参加を呼びかける

地域の人が集まる場をつくる

- ・コミュニケーション場づくり（イベント企画等）
- ・顔見知りになっていける場づくり（趣味づくりからヒューマンネットワーク）
- ・高齢者施設の開放
- ・異世代交流をつくる際には、場の設定が重要。町や単位協会あたりの小規模な交流する場所に磨きをかける

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・趣味のグループ
- ・少年野球チーム、高校ブラスバンド部のように地元が地元のファンクラブをつくる
- ・多くの方が参加しやすい行事を企画する
- ・地域全体で参加できる催しを企画する
- ・地域のイベントの開催（お祭り）
- ・楽しい企画をつくる、強制をしない
- ・行事を通じてつながりを深める
- ・異世代が参加できる場（行事）の提供。子ども会、婦人会、老人会、民生等のつながり、社協のつながりを持つ。自治会加入率を上げることが地域のつながりにつながる。民生委員、見守り活動、防犯、社協役員の顔を知ってもらう
- ・行事に従事する

（イベント名）

- ・ラジオ体操（朝のあいさつ）
- ・地域のスポーツイベント
- ・レクリエーション（バス旅行）の実施
- ・神社のまつり
- ・高齢者の食事会

地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる

- ・参加しやすい工夫をする
- ・小さなことから参加できるようにする（例えば、資源ゴミの回収に参加する）
- ・PTA が積極的に参加できる体制
- ・個別の事情、個人情報にある程度、配慮した上で、「できない理由」を少しでも取り除いてあげて、地域での活動に住民を引き込んでいく。それができる土壌をつくる
- ・強制せず、気持ちでできるようにする（見守りなど）

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・届けたい相手に合わせた情報発信
- ・地域活動の発信の方法を考える
- ・情報を発信、伝わりやすくする
- ・情報誌を送り、PR する
- ・掲示板の効果的な利用
- ・町会へ、また町会外への広報
- ・自治体の中でも情報が偏っており、最下部の人々に伝わっていないことが多い

地域課題に取り組む中でつながりをつくる

- ・高齢者、子どもの見守り活動
- ・育児の社会化
- ・防災の関係（防災訓練）
- ・地域住民の課題を知り、できることから少しずつ

地域でのネットワークをつくる

- ・団体間のネットワークを持つ場をつくる、参画する

地域の担い手を発掘・育成する

- ・社会福祉協議会の役員を育てることに努める

子どもに地域への愛着を持たせる

- ・役員をしている時に自分も楽しみ、子どもたちにも思い出をつくってあげる。そうすれば、「僕たちの小さい頃はなあー」という育ち方をする
- ・小さな時から、人のつながりの必要性を繰り返し伝えていく機会（学校だけでは足りないように思います）

資金を確保する

- ・社協の行事に資金がない。資金集め

その他

- ・ボランティア関係の催し事業に積極的に参加される方を優しくする
- ・民生委員の紹介
- ・現状で十分やっている
- ・先輩諸氏の実績よろしく立派なまちづくりができていていると思う。安全安心、住みやすいまちづくりを何より頑張っていく
- ・TPP

（町会等の関係）

- ・単協（町会）を中心とした連協の強化。PTA、老人会、子ども会、民生委員、さわやか委員、補導委員等のつながり、報告連絡等が薄い。連絡、連携を強化しなければならない
- ・連協活動が十分機能しているので継続する
- ・自治会が社協より強いところがある
- ・新しいマンションには、最初から加入することを条件にする

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・あいさつから始める
- ・相手のあいさつがなくても率先してあいさつを続けるようにする
- ・声を掛け合うべき
- ・住んでいる人の年齢層を把握
- ・地域の独居者の確認

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・地域におけるコミュニケーションづくりを推進する
- ・手伝ってと気軽に甘えて頼む

子どもや若い世代とのつながりを積極的につくる

- ・子どもや若い人も参加できる仕組み
- ・若人を集める工夫
- ・若い母親への子育てのサポート
- ・若い世代の人をどのように引っ張り出していくかが課題
- ・子育てサークルの活性化、子ども会の内容を充実させる（企画）
- ・子どもを対象に子どもと一緒に遊べるよう研究する
- ・防災や高齢者見守りなど、また、学校、子どもの見守り活動を通じ、若い親御さんとの交流をはかる
- ・老人と若者が一緒にできる

地域の行事やイベントに参加する

- ・興味があれば、地域でのイベント等に積極的に参加
- ・積極的に地域の行事には参加するようにしている
- ・イベントや行事に参加し、楽しさを伝える

地域の人が集まる場をつくる

- ・地域の人が知り合う場づくり
- ・コミュニティの場をつくる
- ・つながる場を提供、情報交換の場を持つ
- ・イベントや行事に参加したくても参加できない人（健康弱者等）の地域との関わりを持つ居場所づくり
- ・「あの場所に行けば、誰がいるかな？」と思えるような場所（スペース）をつくれるような地域にしたい（子どものいじめ対策にもOK?）
- ・年齢関係なく楽しめる場をつくる

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・地域で小集団グループをつくる
- ・気軽に参加できるサークルなどをつくる
- ・地域の祭りを開催し、1人でも多く参加してもらう
- ・地域で参加しやすい行事、イベントをダメもとで開催するよう働きかける
- ・イベントの企画、きっかけづくりをする
- ・楽しい取組を考えること
- ・趣味を生かせるようなサークルがあれば
- ・顔見知りになる機会（行事等）をつくる
- ・親子で楽しめる行事を企画
- ・町内会で餅つきや花見やビアガーデンが小さなお客さんでもできたら、お互いが（大人同士、大人と子ども）知り合える。しかし、その準備ができる勢いや体力がなくなっている（私たちのところでは5年程中止）。太鼓の出前のように「餅つき、花見、ビアガーデン」準備を「出前」する支援をつくると良いと思った。ボランティア的グループ、連協的支援。
- ・色々なグループ活動をもっと行っていく
- ・地区の催しやお祭りは常に開催されていますが、同じ内容が続くと参加者も飽きてしまうので、難しいとは思いますが、新しい企画を練り込んでいくことが必要です
- ・苦しいから楽しいへ

(イベント名)

- ・いきいき体操（毎週）、おしゃべり喫茶（毎月1日）、ふれあい喫茶
- ・ファミリーコンサートの開催
- ・話題性。市をあげて取り組む。地域対抗のラジオ体操大会をする
- ・餅つきの出前、花見の出前、市民健診の出前、消防訓練

地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる

- ・「少しでも」参加できる窓口をつくる
- ・地域づくり、まちづくりの主人公は市民であることを整備する
- ・初めての人も参加しやすい雰囲気づくり

個人や団体の努力を後押しする

- ・地域の自発的活動を支援する

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・回覧板を重要と考え、ルールづくりをしっかりと
- ・地域の情報をもっとオープンに。知らなかったことが多い
- ・情報発信をもっと有効に活用してはどうか（SNSなど）
- ・若者へのSNS発信（情報）
- ・活動内容を明確にし、情報発信
- ・地域のことをもっとよく知ってもらう
- ・社協としての活動内容をもっとPRしてください
- ・市民団体の内容（活動）がわからない
- ・相談できる地域の組織の紹介を駅やスーパーに貼る
- ・やりたいことがわかるようにする（見える化）
- ・全住民を対象に知らせ、取り組む

地域課題に取り組む中でつながりをつくる

- ・介護の知識を教えあえるつながり
- ・環境を良くする取組をみんなで行う
- ・啓発活動。防災意識の向上（緊急時の行動）
- ・高齢者の見守り
- ・単身、独居老人の見守り
- ・訪問している方との間に情ができて続けています

既存の仕組みに捉われずに対応する

- ・新しい提案を取り入れる柔軟な姿勢

地域でのネットワークをつくる

- ・学校との結びつき
- ・各団体（サークル、マンション、福祉施設など）交流会
- ・社協の地区を越えたつながり
- ・各単組において、レクリエーション等でコミュニケーションを保つ
- ・団体、町会同士で協力し、大きなイベントをつくり、地区での交流を深める機会をつくる

地域の担い手を発掘・育成する

- ・コミュニケーション能力のある人を見つける

子どもに地域への愛着を持たせる

- ・これからの子ども青少年にとって尼崎が“ふるさと”と思えるまちになればいいと思う。福祉、教育、町の環境、人なり、心の温かいまちであるよう努力し続けたい

町会等への加入を促進する

- ・社協への加入を進める
- ・各種団体に積極的に入らせる

資金を確保する

- ・お金も必要
- ・町会（会費を払う）考え方を考える。町に補助会を一定にする
- ・会を開きやすいような使用料の設定

その他

- ・過去のわだかまりは捨てる
- ・出前を振興会が支援する
- ・動物を買う
- ・危機意識の共有
- ・6色の地域別Tシャツ・イベント当日のみのボランティア
- ・高齢者であっても1人でも参加者を増やす努力をしたい
- ・PTA活動等を通じて地域に入ってきてもらいたい
- ・地域のことを地域の人が考える仕組み
- ・個人でできないことをみんなでやる

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・声かけ、見回り、呼びかけ
- ・シングルマザーで子育てしている方々の支援を同じマンション、地域でやっていく
- ・子どもを近所同士で預け合えるような信頼関係を築く
- ・近所との付き合いをあいさつから始め、三世代交流の場をより身近なものから進める

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・一緒に考えられる雰囲気づくり
- ・積極的に住人に参加を呼びかける
- ・違う人から声かけして、参加を呼びかける
- ・1人1人声かけ、イベントには参加してもらうようお誘いする
- ・こちらから具体的にお願ひする「来てね」
- ・1人でするのではなく、誰かと一緒に実行することで、他人とのつながりをすすめることができる

子どもや若い世代とのつながりを積極的につくる

- ・若者の興味、関心を引き出せる行事の仕組み
- ・子どもを巻き込む行事を行う、きっかけをつくる
- ・子どもを誘う
- ・若い世代の推進

地域の人が集まる場をつくる

- ・気軽に地域の課題を話し合える場
- ・みんなの課題を気軽に話し合える場
- ・こうなったらいいな、ということを話せる場
- ・公民館など、イベント企画、宣伝できる場所づくり。どの年代も集まれる場所

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・現状の地域コミュニティ活性化を志向する人々の結集とその仕掛け
- ・世代特有の問題や趣味の集まり等、様々なテーマで催しをすれば、何かきっかけができるのではないだろうか
- ・参加しやすいイベント
- ・あらゆる世代が参加できる行事づくり
- ・誰でも参加できるような事業実施
- ・趣味の会を中心に取組を始める
- ・世話をされる方は大変ですが、労を惜しまず、最低年2回のイベントをやってほしい
- ・世代をまたぐイベント、スタッフも楽しめる行事を行う
- ・楽しい催しを企画し、参加を促す（広報大切）
- ・世代間交流できるイベント
- ・多くの人に関心を持つ、イベントを企画、実施する
- ・1度何かに関わってもらえる機会があればつながる
- ・きっかけづくりが必要

(イベント名)

- ・振込詐欺講習
- ・いきいきサロン
- ・バーベキュー大会や花見をする
- ・研修旅行
- ・救急教室
- ・子ども会、老人会、ラジオ体操
- ・老人クラブ、若手部会
- ・敬老会、集会、カラオケ、踊り、オカリナなど
- ・年末パトロール（火の用心）
- ・盆踊り大会、親子運動会
- ・餅つきなど子どもから大人まで世代間交流
- ・防犯、地震教室。自主防災

地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる

- ・今まで参加しなかった人も参加できるような工夫をする
- ・お徳感のある催しで、参加のきっかけを作る
- ・入りやすい自治会
- ・行事に参加しやすい雰囲気作り、仕組みづくり
- ・風通しの良いまち
- ・初めての参加者を受け入れてほしい
- ・役員を必ず務めるような方だけでなく、気軽に入れる自治会づくり
- ・来る者拒まず、去る者追わず
- ・参加するための楽しみをつくる

個人や団体の努力を後押しする

- ・グループ立ち上げサポート（アドバイス）

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・チラシ。回覧板回しで地域を知ってもらう
- ・町会のあり方の説明をする
- ・地域の中に団体があることを伝える
- ・イベント実施に合わせた主催広報
- ・地域の IT インフラの充実

地域課題に取り組む中でつながりをつくる

- ・見守り活動
- ・見守り。独居老人（70歳以上）
- ・子育て、高齢者の問題を考えていきたい

地域でのネットワークをつくる

- ・地域のネットワークづくり

企業や学校等と連携する

- ・企業、学校等との連携、市内在学、在勤者の地域参画
- ・企業組合との連携。役所の方も連携、参画
- ・学生をもっと活用する
- ・高校生に力を貸してもらう
- ・学生のつながりが大切

つなぎ役となる

- ・ニーズと資源をマッチングする場を提供する

地域の担い手を発掘・育成する

- ・町会役員の後継者を育てる（人材育成）
- ・地域のつながりー組織づくり（リーダーの育成）
- ・各部…部長が自由にリーダーシップを発揮することができるように会長…各部長とのコミュニケーションをとる

資金を確保する

- ・活動資金補助
- ・助成金の使用の制限撤廃

その他**(個人として)**

- ・仲間づくりのお手伝い
- ・家でグループ活動しています。健康チェック

(その他)

- ・場合によっては強制力も必要？（岸和田まつり）
- ・ちょっと義務化
- ・地域で区切られると参加できないことも
- ・誰もが当事者となって活躍できる仕組み
- ・週休三日
- ・仕掛けを実施する ←背中を押してくれる ←行政
- ・防災、防犯などの共通テーマ
- ・横のつながりから縦のつながりを持っていけば、地域の活性化になっていくと思う
- ・老人クラブや婦人会等に加入する

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・あいさつの実行
- ・隣近所へのあいさつ
- ・声かけ
- ・地域とマンションとのつながり

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・新しい人を呼びかけ、地域行事に参加してもらう
- ・親睦を深める

子どもや若い世代とのつながりを積極的につくる

- ・子ども会をつくる。子どもの世話をする
- ・民話を子どもたちに伝える
- ・子どもさん向けのイベントを企画すれば若い世代も来る
- ・PTA との関わりづくり →若い世代の参画

地域の行事やイベントに参加する

- ・自分の地域で行う催し物は必ず参加する
- ・連協行事に参加する

地域の人が集まる場をつくる

- ・みんなが集える場づくり
- ・情報発信、共有できる「場」づくり→地域の拠点づくり（人が集まる場所）
- ・情報、人的結びつき等のための拠点づくり

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・学校や施設（公民館や図書館）が地域に開けたイベントを実施
（例：読み聞かせ、体育祭、学校の運動場を使った地区まつりなど）
- ・大きな行事だけではなく、小さな行事や活動も継続して行っていく
- ・みんなが参加できる行事を多くする
- ・子どもや若者が楽しめる行事
- ・親子が参加できる行事を行う
- ・行事、イベントの機会を多く設ける →住民間の顔見知り同士、関心度を高めていく
- ・体験する機会をつくる
- ・気軽に参加できる楽しいイベント
- ・連協事業を多く行う
- ・地域の人に参加しやすく、集まりやすい行事を開催する。特に防災活動は子どもから高齢者まで参加し、活動を通じて「つながり」が形成されるツールである
- ・共同作業を実施する
- ・地域参加イベントの機会を多くする
- ・町会として、元気になるために、アイデアを発揮して活動をする
- ・祭りやイベントが交流の場となるのではないかと思います。企画をすることや家族が参加することで、世代間交流になり、何かあったとき、それぞれが自分の果たす役割を考え、行動できるのではないのでしょうか

地域活動に参加しやすくなるような仕組みをつくる

- ・強く縛られない形で参加できるようにする

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・SNS での発信
- ・考えるあらゆる媒体を使う
- ・(SNS など色んなツールをつくって) 私みたいに「やる気はまあまああるけど声かからんし…」みたいな人に情報発信していただければ参加したい

まちの良い点を積極的に発信する

- ・アピールポイントを掲示する

地域課題に取り組む中でつながりをつくる

- ・美しいまちづくり
- ・クリーン運動とか
- ・みなさんの健康状態管理

既存の仕組みに捉われずに対応する

- ・今までの仕組みに捉われずに改善してほしい。村意識で、排他的な部分も強く感じたので全ての世代が関われる開かれた地域にしてほしい

地域でのネットワークをつくる

- ・小さな単位のネットワークづくり
- ・仲間づくり、ネットワークづくり
- ・小さいグループ

地域の担い手を発掘・育成する

- ・潜在的に地域のために力になりたいと考えている人がある程度いる。その人たちを発掘すること
- ・地域の行事に役割を担う人を育てる。募集して、実行委員会形式にする。役員がしんどいことでなく、楽しくできるように一度機会があれば、各種団体の場で話してみたい
- ・次世代育成
- ・次世代につなぐ地域づくり
- ・自治会メンバーの高齢化

特定の人が高荷にならないように役割を分担する

- ・役職の分散化
- ・役職が重荷
- ・役割分担をして、1人の負担を軽くする
- ・各自に会合に入り、役割の分担を

安全な環境をつくる

- ・まちの安全
- ・防災対応
- ・防犯パトロールに参加する
- ・地域防災計画（マップ）をつくる
- ・消防団、少年補導員。県、市共協力してもらう

その他**(町会等として)**

- ・敷居が高い町会
- ・町会がないところもある
- ・社協の役員をやる
- ・自治会活動サポーターを増加
- ・地域から何かをしてもらおうとするのか、個人として入って何ができるかが大切
- ・町会への出入り自由
- ・自治会長の任期を短くしない（1年は短い）
- ・任期より早くやめてしまう

(その他)

- ・団地の老朽化、高齢化
- ・活動に貢献したらポイントを付与
- ・地域の人たちと話す中で、様々な意見が出ていて、何ができるかを普段から真剣に考えてくださっているのだと感じました

① 緊急時にも助け合いができるような地域のつながりをつくるには、普段からどうすれば良いか？

地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

あいさつをしやすい環境をつくる

- ・あいさつをして顔見知りを増やし、情報を共有していく
- ・あいさつができる環境をつくっていく
- ・まずは近所の方を知ることから始まる

町会等に参加していない人にも気を配る

- ・団体に所属していない人への声かけ
- ・新しく引っ越してきた方への町会の案内
- ・町会に入っていないから「ごめん」をなくせたら良い

住民とのコミュニケーションを積極的にとり、巻き込んでいく

- ・参加を呼びかける
- ・協働の呼びかけ

地域の行事やイベントに参加する

- ・地域のイベントに参加する

地域の人が集まる場をつくる

- ・世代間交流のできる場、居場所づくり
- ・ふらっと立ち寄ることのできる場が大切
- ・寄り合いの場をつくる
- ・人と人とが会える場をつくる
- ・地域住民の集える機会を増やす
- ・常に集会を持つ
- ・活動の場をつくる

地域の人が集まるきっかけをつくる

- ・つながりをつくるにはきっかけが必要。そのためには楽しいイベント（お祭やサークル等）があれば自然とつながりができると思う。共同作業は大切
- ・地域全体参加型の行事の開催
夏祭り、盆踊り、もちつき大会→楽しい催し
- ・みんなが参加できる身近で気軽なイベントを企画する
- ・イベント、祭をきっかけにつなかりを深める
- ・公園を利用した行事

興味のある分野に参加できるようテーマ別の活動を増やす

- ・子育て、1人暮らしなどサークル的なものをつくる
- ・ボランティア活動の活性（子ども会、図書ボランティア、防犯パトロール）
- ・スポーツの団体に参加する
- ・仲間づくり、ネットワークづくり
- ・お金のかからない集まりをつくる

個人や団体の努力を後押しする

- ・個人で行う努力を後押しする（あいさつ運動やみんなが参加できる行事の開催など）
防災訓練、避難訓練、高齢者見守り、子どもの登下校の見守り→協力して安心安全に前進
- ・小さなコミュニティ、個人が色んなテーマやイベントを企画、提案し、地域の協力を得られやすいシステムをつくる

地域の情報の発信方法を工夫する

- ・地域の情報を共有するための広報のあり方
- ・掲示板の文字を大きくする
- ・色んな情報が行き渡るように発信する
- ・イベント等の情報が知りやすいようにしてもらえると良い。集まりやすくなる
- ・情報の提供を丁寧に行う
- ・どうすれば自治体等を利用できるかを知らせてみる（知らせることがプラスになるイメージをつけてみてはどうか？）
- ・活動への参加の仕方の説明
- ・活動を発表する
- ・どんな活動をしているか発信する
- ・自然を守る取組など、住民市民に知らせる

地域の人材の協力を得る

- ・地域別に民生委員を中心とした組織化しては如何かと考える
- ・保健師さん（地区担当）と相談

地縁の活動を見直す

- ・町会と社会福祉協会の二重性をなくし、社会福祉協会を「自治を守りながら活動する場にする組織」に育てること、そこに予算を出すようにする
- ・町内会等を魅力的なものにする
- ・楽しい会合で町会を利用する

学校を拠点として活用する

- ・学校を活かした発信の仕組み
- ・学校等を通しての参加
- ・学校でミーティング
- ・学校を開かれたものにする
- ・学校等の「場」の開放
- ・小学校の開放

学校教育と連携する

- ・学校教育の中でコミュニティ活動を推進する
- ・その地域でのオリジナル授業を行う

地域の人を持っている能力を活かす

- ・学校でミーティングを行ったり、地域の人が小学校で授業をするなどして、顔見知りになる
- ・公民館などでお年寄りの方が、勉強やそろばん、習字、将棋などをボランティアまたは格安の値段で教えていただけたら嬉しい

町会等への加入を促進する

- ・町会に入ってもらえるようにする

安全な環境をつくる

- ・安全に遊べるような環境をつくっていく
- ・園田小学校がしている集団登校が他校にも広がると良い
- ・小学校の集団登校、やめてしまった地域が多いのがとてももったいない
- ・見守り隊の方のお名前が子どもたちにも分かると良い（例：〇〇のおっちゃん）

その他**（個人として）**

- ・できれば自治会役員を受ける
- ・自分で決めることを教える
- ・人のために役に立ちたい
- ・最低限度のルールを守る

（町会等として）

- ・個人の声（困りごとや意見）を受けとめる必要がある
- ・町会は共通の問題を一緒に考えやすい場が大切なところ

（その他）

- ・公民館の利用を増やす
- ・旧人、中人、新人がまとまらない
- ・人のキープ（ハブになる）を民間の仕事にする
- ・中学校給食を早くしてほしい。人口が増えていく
- ・町会に加入

3 地域で担うこととはどんなことか

| | 中央 | 小田 | 大庄 | 立花 | 武庫 | 園田 |
|------------------------|----|----|----|----|----|----|
| 身近なつながりのつくり方 | 6 | 5 | 7 | 8 | 2 | 5 |
| 各種団体に所属していない人への対応策 | — | 1 | — | — | — | 1 |
| つながりの強化 | 6 | — | — | 3 | — | — |
| 学校教育との連携する方法 | — | — | — | — | — | 3 |
| 話し合い・交流等の場の持ち方 | 1 | 1 | 3 | 4 | 2 | 5 |
| 地域での学習の場の持ち方 | — | — | 2 | — | — | 3 |
| 参加しやすい地域活動の企画 | 5 | 4 | 3 | 7 | 4 | 7 |
| 地域活動に参加しやすくなるような仕組みづくり | — | 1 | — | — | 4 | — |
| 若い世代の地域への参加促進 | 2 | 1 | — | — | 1 | — |
| 地域課題の解決 | 2 | 2 | — | 2 | 1 | — |
| 見守り・見回りのしくみ | 5 | 2 | 3 | 7 | 5 | 8 |
| 高齢化社会への対策 | 2 | — | 3 | — | — | 2 |
| 防災・防犯対策 | 10 | 2 | 5 | 5 | 3 | 4 |
| 情報の収集 | — | — | — | — | 1 | — |
| 情報の伝え方 | 3 | 1 | 3 | 2 | 6 | 5 |
| 地域の担い手育成 | 2 | 2 | 3 | — | 1 | — |
| 地域リーダー | — | — | — | — | — | 2 |
| 地域の中での役割分担 | — | — | 1 | — | 1 | — |
| 個人や団体の努力に対してのサポート | 1 | — | — | 2 | — | — |
| お金の使い方 | — | — | — | — | — | 3 |
| 地域の将来ビジョン | — | — | — | — | — | 3 |
| 子どもを育てやすい環境づくり | 2 | 1 | 3 | 2 | 7 | — |
| 町会等のこと | — | — | — | — | — | 2 |
| 町会等への加入促進 | — | 2 | — | — | 2 | — |
| 地域でのルール | — | 1 | 4 | — | — | 8 |
| 行政の目が届かないこと | — | — | — | 1 | — | — |
| 地域の美化や住環境保全策 | 6 | — | 1 | 1 | 3 | 4 |

② 「地域で担うこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・防犯、見守りパトロール
- ・防犯ビデオの設置
- ・見守り、防犯 etc. 近隣でのことを第一的に気付くこと、気にかけること。後は、それぞれの専門に繋ぐ
- ・身近な事柄（防犯など）について一層の努力を
- ・安心、安全の地域をつくる
- ・防犯、防災、災害時、地域でどうすればいいのか？
- ・防災訓練
- ・防災組織の作成
- ・通学路や津波のときの避難経路等のマップづくり
- ・災害時の避難。町内マップづくり

見守り・見回りのしくみ

- ・見守り（特に独居老人）
- ・高齢者見守り
- ・高齢者や子ども達の見守り活動
- ・子どもの見守り、特定の見守りだけではなく、各個人が通学時間帯に表へ出て、声かけを行う。短時間の負担で済む →いかに参加してもらうか？
- ・小学生通学路見守り

高齢化社会への対策

- ・高齢者に対する配慮が足りないと思います
- ・尼崎市においても高齢化&少子化になっているが、それを担っていく必要がある

地域の美化や住環境保全策

- ・清掃、美化
- ・町並清掃
- ・近所の公園の掃除、防犯組織の作成
- ・地域の清掃活動、見回り活動
- ・カラス対策等
- ・地域の住民で地域の清掃を

身近なつながりのつくり方

- ・あいさつや声かけをする
- ・声かけをよくすること
- ・先ず、「お隣さん」から
- ・高齢者見守り、子どもの見守り等、近隣でなければできないネットワークを予め作っていくこと
- ・うちは、中難波公園で公園の掃除を子ども達と地域の人達でやっている
- ・町内会でヒューマンネットワーク、顔を知ってもらうこと

参加しやすい地域活動の企画

- ・地域づくりには、イベント、神社による祭り、子ども会の中に婦人会が参加してコミュニケーションを取る
- ・お祭りの実施
- ・催しごとに積極的にアピールする
- ・地域が一丸となって取り組めるイベントの開催
- ・年配の方への関心を深め、交流ができるようなことを実施していく

話し合い・交流等の場の持ち方

- ・地域コミュニティづくり

情報の伝え方

- ・地域で活動を広報
- ・情報の交換（地域コミュニティ、見守り、防災）
- ・情報の提供及び交換

地域課題の解決

- ・地域のテーマを抽出する仕掛けをし、共有の問題解決へ向って実践していくこと
- ・打開策を考える

子どもを育てやすい環境づくり

- ・地域の子ども達への教育フォロー
- ・子ども会。地域教育

地域の担い手育成

- ・分担して関わりをもってもらう
- ・次の人材作りを強く考え努力すること

若い世代の地域への参加促進

- ・高齢者と若い人達との接点
- ・地域に若い人（親）の参入の必要性

つながりの強化

- ・マンション住人とのつながりづくり
- ・マンション住人同士のコミュニケーション（食事会等）
- ・人と人との繋がりを強くする
- ・参加者の横の繋がり
- ・皆で連携し、つながりを深める
- ・つながりの強化（マンションなど）

個人や団体の努力に対するサポート

- ・仕掛けを作る人 →気付く人のフォロー

その他

- ・来月、敬老の日に対して記念品の廃止等おかしい、市政に苦言します
- ・命の大切さを一番に思います。そのためになることを考えて行きたい
- ・一軒一軒まわって色々な人の意見を聞くこと
- ・自己負担の助成
- ・言い換えれば自分に関わってくること
- ・尼崎の魅力あるまちづくりへのきっかけ作り
- ・熱意
- ・町会役員が知っている人と知らない人のギャップが大きい
- ・町会に入ることを断る人がいた
- ・社協として組織的に活動する

② 「地域で担うこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・地域の防犯
- ・大規模災害での住民同士の助け合い

見守り・見回りのしくみ

- ・地域住民のつながりを大切に高齢者等が安心して住めるまちづくり
- ・高齢者の問題（会食、配食、見守り）

身近なつながりのつくり方

- ・輪をつくること
- ・行事に参加することで地域の輪が広がるきっかけにしたい。行事の手伝い等、好きな時間に好きなだけ参加できる組織づくりが必要か
- ・参加してください
- ・興味を持っていない人に関わってもらう
- ・声かけをする

参加しやすい地域活動の企画

- ・施設、商店の開放やイベントを行う
- ・面白いこと、楽しいこと且つ気軽に参加できれば入りやすい。スタートは敷居の低いものから
- ・バス旅行
- ・参加 → 参画につなげられるようなイベントの開催

各種団体に所属していない人への対応策

- ・どんな人にも（自治会に入っていない人でも）困った時に差し伸べる手があるような取り組み

話し合い・交流の場の持ち方

- ・異世代とのつながりを持つ努力

情報の伝え方

- ・情報の交換

地域課題の解決

- ・制度の漏れや抜けを埋める活動（中高生の居場所、きめ細かな防犯）
- ・100歳体操の定着化

子どもを育てやすい環境づくり

- ・子どもが過ごせるコミュニティをつくる

地域の担い手育成

- ・人材の育成、発掘
- ・役員を片寄せない

若い世代の地域への参加促進

- ・今後は、現役員（町会の役員、委員長、班長）が高齢者であり限界があるため、若い方へお願いすることに力を入れたい

地域活動に参加しやすくなるような仕組みづくり

- ・参加しやすい仕組みづくりを考える

地域でのルール

- ・地域で解決できること、すること、行政がすることの線引きというか、ラインを決めておく

町会等への加入促進

- ・加入率アップの工夫をする
- ・呼びかけに始まり、一軒でも多くの会員を増やす

その他

- ・地域で担うことは良いことづくめでもない。情報の共有とネットワークの軽さがなければ、自治会の着服等、課題が発生する。地域で担うには第三者（行政）の協働作業があるべき姿である
- ・行政の顔が見えないので行政の参加を
- ・歴史の伝達
- ・変化に気付く（服装）
- ・ボランティア

② 「地域で担うこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・防災訓練などは今後一層大切だと思います
- ・安全安心なまちづくり
- ・災害時の避難訓練（高齢者が多い）
- ・防災。高齢者をどのように助けるか
- ・災害時の支援体制の確立

見守り・見回りのしくみ

- ・高齢者見守り
- ・高齢者等の見守り活動を継続する
- ・孤独を感じる人をなくすこと。絆をつくる機会を設定し、参加しやすい雰囲気づくりをすることも大切だと思います

高齢化社会への対策

- ・認知症を抱える家庭
- ・老人1人暮らしの見守り
- ・地域のつながりを深めることが大切だが、高齢者、認知症等の問題がいっぱいである

地域の美化や住環境保全策

- ・各地区、自宅近隣の掃除

身近なつながりのつくり方

- ・面倒くさがらず話しかける。言葉を大切に
- ・あいさつの励行を推進する
- ・近所の住民と仲良く生活ができる仲間づくりが大切である。何事もみんなが知り合える地域でありたい
- ・孤立する人がいないように声かけを行う
- ・気軽に声かけをできるように「あいさつ運動」を行う
- ・ご近所とのコミュニケーションをなるべく取る
- ・住んでいる人のことを知って伝える

参加しやすい地域活動の企画

- ・イベント等をもっとオープンにしてほしい
- ・小さな子（親）を巻き込む
- ・小さい子どもと関わる企画を増やす

話し合い・交流の場の持ち方

- ・色々な趣味が活かせる場があれば良いと思います
- ・絆をつくる場所を設ける
- ・子ども、若人、老人と一緒に集える社会を

情報の伝え方

- ・情報を伝達する
- ・色々な情報交換が必要
- ・色々なことを共有し合う

子どもを育てやすい環境づくり

- ・子どもたちが安全に遊べる場所づくり
- ・近所の子どもは自分の子や孫の半分くらいと思って接する
- ・子どもへあいさつ。コミュニケーション

地域の担い手育成

- ・活動の担い手づくり
- ・世話役の成り手がいない
- ・地域で人を育てること

地域の中での役割分担

- ・一人の負担を減らすような役割分担

地域でのルール

- ・ルールづくり
- ・ゴミ出しなどのルールを守ること
- ・ルールを守って住み良いまちにする努力
- ・どこまでが「地域」で、どこからが「行政」かのライン決め、ルールづくり

地域での学習の場の持ち方

- ・ボランティアの学習を深める
- ・中学生、高校生等を通じて、ボランティア活動等へ人を育成して行かねばいけない

その他

- ・「困りごと」は何でも。しかし、全てが解決できるわけではない
- ・趣味を生かせるサークルをつくる
- ・連協を主体とし、各単組との連絡、協力を強化推進する
- ・住みたいまち、住み続けたいまちに
- ・シルバーの活動を通じて地域の輪を広げていきたい
- ・行政と地域が一体になること
- ・相談のできる場所、人
- ・一人ひとりが思いやりの心で接する地域でありたい
- ・自分たちのできることを自分たちのためにする
- ・地域でできることを行ってそれを地域の人々に告知をする
- ・地域のことは地域で
- ・支えあうことが全て
- ・過去の色々なわだかまりはなくしてオープンに
- ・困りごとなどよく話し合い共有する
- ・地域のご近所力をはかる
- ・昔遊び
- ・女性が活動の中心になっている。男性も参加できるように
- ・行事の手伝いをしてくれる仕組みが必要
- ・できることや、やりたいことを「見える化」する
- ・コミュニティづくり
- ・各家庭の事情の項目。ミーティング
- ・個人個人。一对一の関係が大事
- ・極力、お金を使うことなく、個人のもっているものを使う
- ・福祉活動の実行
- ・家の外での自分だけで決められないこと

②「地域で担うこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・防災訓練
- ・防災組織をより強化する
- ・災害時の助け合い
- ・防犯灯の増設、事故防止
- ・地域での危険箇所の把握

見守り・見回りのしくみ

- ・高齢者の見守り
- ・昼、夜パトロール
- ・子どもを大切にす →見守り
- ・子どもや高齢者の情報を共有
- ・みんなで地域を見守り、孤独死などない親しみやすい地域をつくる
- ・認知症の方の徘徊や夜間の自宅訪問への対応
- ・小さな集まりで高齢者と子どもの見守りなど、高齢者と子どものための心、食、安全、健康のサークルづくり

地域の美化や住環境保全策

- ・公園の清掃活動

身近なつながりのつくり方

- ・あいさつをする
- ・互いに気にかけてあうことが重要
- ・1人でやるのではなく、協力してくれる人の存在が大切
- ・声かけをする
- ・1人ではできないからみんなに声かけする
- ・子どもとのコミュニケーション
- ・近所の助け合い
- ・地域のつながりをもっとつくりたい

参加しやすい地域活動の企画

- ・盆踊り等の地域での交流
- ・人のつながりができるような事業を開催
- ・行事の企画
- ・地域みんなで楽しめる祭りや餅つきを企画する
- ・地域ぐるみのイベントを活発に開催する
- ・地域レベルでのイベント開催。人を集め、地域活動に参画する人を育てる
- ・子ども中心のイベントを組むことで、親を巻き込んだの活動をしていくことが大切

話し合い・交流の場の持ち方

- ・みんなで集える場を提供する
- ・みんなが集まれる場所
- ・コミュニケーションをする場づくり
- ・住民の方々が集える場をつくること、高齢者が参加できるよう地域単位で→サロン、定期的な催し

情報の伝え方

- ・情報を発信
- ・自治会に入っている、いないに関わらず、イベントの広報をすること。市内の行事は市広報に載りますが、地域でやっていることはわかりにくいので、初めて参加する人のための配慮も必要だと思います。次回も参加したいと思わせる心配りもあれば嬉しいです

地域課題の解決

- ・個々の距離感を認めた上で、共同して課題解決に向けて取り組むこと
- ・高齢者関連予防策

子どもを育てやすい環境づくり

- ・子どもの安全
- ・子どもを守る

つながりの強化

- ・マンションの中でのつながり
- ・縦のつながりより横のつながり強化
- ・他の町会とのつながり

個人や団体の努力に対してのサポート

- ・場をつくるためのノウハウ提供、場の提供、資金援助
- ・活動をサポート（資金、人）

行政の目が届かないこと

- ・行政の目が届かないところに目を配る

その他

- ・公共施設、借りる場合 窓口で市職員の対応について
- ・“みんなで”を合言葉に実行する
- ・子どもが学校を卒業すると地域との関わりが減る
- ・高齢者の方のゴミ出し
- ・マンション（集合住宅）のからす対策の件
- ・自転車の交通ルールを守る
- ・自転車の町、尼崎をアピールする仕組み
- ・「地域でできることは地域で」の考え方の浸透で愛着の気持ちが高まり、人のつながりが強くなる。そんな仕掛けをするインフラ整備が必要
- ・地域でできることは地域です
- ・同じ小学校に通っているのに、子ども会があるなしで行事に参加できない
- ・別々に行っているイベント等を合同で
- ・会館の利用が少ない
- ・近所のつながりが無い
- ・町会に協力をしてくれない
- ・地域のつながりが無いのが苦しい。もっとあいさつがほしい
- ・趣味、生きがい、仲間と楽しい時、その分野の講師

②「地域で担うこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・防犯、パトロール
- ・防犯、防災は一番地域で必要なことと思います
- ・地域の防災、防火、防犯を重点に

見守り・見回りのしくみ

- ・子育て、1人世帯への声かけ。見守りは地域でしかできないことだと思う
- ・見守り（認知症の人が徘徊できるまちにしたい）
- ・児童の通学の見守り
- ・小さい子どもの子守り。言ってくれたら預かるけどどこに言うの？
- ・「子育て」と「1人暮らし」に対する支援が必要である

地域の美化や住環境保全策

- ・駅前美化
- ・自転車問題
- ・地域の神社、公園は定期的に清掃しているが、空き地、JRの下などは草が多く、交通の妨げになっており、蚊の発生を生む

身近なつながりのつくり方

- ・できるかぎり、多くの人とのコミュニケーションを高める工夫
- ・知人を多くつくり、その上で声かけ、注意をする

参加しやすい地域活動の企画

- ・福祉会館のキッサ、雑談会
- ・楽しい祭り
- ・祭りをもっと開いてほしい（盆踊りなど）
- ・地域参加の場が少ないと勉強になりました。昔からの住民と新しい住民の交流しやすい、大小のイベントなどを計画する、組織をつくる

地域活動に参加しやすくなるような仕組みづくり

- ・これからの地域づくりをより良く継続させるために、子どもが楽しめる行事を通じて、子どもたちが町会行事に主体的に取り組み、関わることで、次の担い手へとつなげる
- ・地域でのイベント活動への参加機会を多くする
- ・新しく入った人が関われる仕組みづくり
- ・新しい人が入りやすい環境やルールづくりを行う

話し合い・交流の場の持ち方

- ・世代間の交流の場をつくる →何かあったときのコミュニティの力になっていく
- ・子ども会の育成

情報の収集

- ・情報収集。困っている人、何で困るのか、力になってくれる人、やる気のある人。いろんなアンテナを張ること

情報の伝え方

- ・今、解決すべき課題として、活動や行事、その他色々な連絡事項などの情報が、あまり幅広く回っていないことがあった。そのため、自分たち若い世代で、たくさんの人に情報が伝わるように情報を発信していくべきであると思う
- ・地域で行っている行事の情報発信
- ・アピールポイントの共有
- ・PR不足。入会方法不明
- ・活動を公開する
- ・色々な情報を対象となる人たちに届けることで、地域に関心や愛着を持ってもらい、みんなで支えあう気風をつくっていく

地域課題の解決

- ・同じことで困っているテーマについて、解決方法を話し合う

子どもを育てやすい環境づくり

- ・子どもを育てやすい環境をつくる
- ・子どもを守る
- ・子育て家庭の支援
- ・子どもの人間関係を広げる仕組みをつくる（子どもの世界を広げる）
- ・子どもを見守り、子育て世代を支援する
- ・地域で子どもを育てる
- ・子育て世代の負担を軽減

地域の担い手育成

- ・後継者を育てる

若い世代の地域への参加促進

- ・どのグループワークを通して「子ども」、「若い世代」といった次世代を意識した議論が活発であった。今日の会合からもわかるように、地域を担う世代の高齢化が進んでいる。若い世代を育てることは地域を未来へつなげていくためにも重要ではないだろうか。子どもやその父兄を対象としたイベントを実施し、若い世代にもコミュニティに参加してもらうことの大切さを意識していってもらいたい

地域の中での役割分担

- ・役割分担

町会等への加入促進

- ・加入促進
- ・新しい住民への加入の呼びかけ

その他

- ・加入の誘いが無い。どこへ行けばいいかわからない
- ・揉め事の解決
- ・やる気のある人がどこにいるかわからない
- ・地域資源、文化を若い世代に伝える
- ・目標を持ち、流れをよく読み、教養を高める。行動を起こす
- ・行事（清掃）に参加者を募りたい
- ・地域独自のものを探し広める
- ・ちょっとした困りごとの相談
- ・何かあったとき、家族を守るために地域での関わり方が大切
- ・地域のネットワークを広げる

② 「地域で決めないといけないこと」とはどんなことか

防災・防犯対策

- ・防災、防犯
- ・ひったくりに対する対策が必要
- ・安心、安全なまちづくりに協力する
- ・災害等、一家族だけでは守ることが多いので地域の中で協力する

見守り・見回りのしくみ

- ・見守りのための仕組みづくり
- ・児童やお年寄りに対する見守り活動
- ・高齢者の見守り
- ・孤独死、子育ての支え
- ・子育て支援
- ・核家族の孤立化をなくす
- ・集団登下校などの仕組みづくり
- ・定期的な見回り
 - 子どもたちが安全に遊ぶ場所をパトロール

高齢化社会への対策

- ・高齢社会に具体的に対応できる仕組みづくり
- ・認知症対応の地域ボランティア組織を地域ごとにつくる

地域の美化や住環境保全策

- ・地域の美化
- ・ゴミ拾いなど自分でできることは自分でして行く
- ・環境保全活動
- ・自然と親しむ花を植える努力

身近なつながりのつくり方

- ・いつも笑顔であいさつを出来るようにする
- ・あいさつの徹底
- ・顔が見える、声がかかけあえられる場づくり
- ・隣、近所との関わり
- ・子ども同士のつながりづくり

参加しやすい地域活動の企画

- ・なるべくたくさんの方が地域の活動に参加できるような仕組み、ルールなど
- ・子どもと参加する行事を増やす
- ・子育て世代を地域活動へ入れるためには子連れ OK なことが必要。しかし、遊び場、広場がない
- ・みんなが参加しやすいように、〇〇週間というような形が良いと思う。特定の団体の方向性で偏らないようにする
- ・趣味での集まりを増やす
- ・野菜の朝一（都市と農村の交流）
- ・忍者学校

各種団体に所属していない人への対応策

- ・団体に所属していない人への声かけをどうするか

地域の将来ビジョン

- ・この町をどんな町にしたいか
- ・課題を共有する方法（筋道）
- ・自分たちの地域で大事にしようという「テーマ」や「目標」、またその周知

話し合い・交流の場の持ち方

- ・色々なテーマの集まりを作りやすくし、参加を促す
- ・サークルなど、場所づくり（空き家の活用）
- ・地域から問題や提案を多くの人が意見し、話し合えるツールをつくり（HP、SNS など）
行政にも提案。まず、システムがないので決める場をつくる
- ・世代間交流ができる機会をつくる
- ・地域で定期的な集まり等を通じて、コミュニケーションを図っていく

地域での学習の場の持ち方

- ・AED 講習会
- ・健康づくり学集會
- ・ずっと健康プロジェクト

情報の伝え方

- ・地域の組織（町会など）の情報発信が不足している
- ・情報の発信元を決め、新しい仲間（住民）へ案内する
- ・情報の無さをどう改善するか
- ・お知らせやイベントの案内をわかりやすくしてほしい
- ・新しい仲間への案内元をはっきりする（祭り、子ども会など）

お金の使い方

- ・地区で使うお金について
- ・地域でできることは地域でお金をかけないで対処していく
- ・町会でなく社協で会費をなしにする

町会等のこと

- ・町会（社協）中心ではなく、新しい組織を考えるべきである
- ・町会などの参加（加入）

地域リーダー

- ・億劫がらずに動いてくれるリーダーが必要（その人の力で皆が集まることできる）
- ・民生委員を活かす

学校教育との連携する方法

- ・学校教育からコミュニティを勉強してほしい
- ・学校等でも地域のことを勉強する
- ・放課後の利用（班活、遊ぶ、反省会など）

地域でのルール

- ・ゴミ等のルールづくり
- ・明確なルールブック
- ・ルールとしてあったらよいことを考える
- ・公園の遊具に落書きしない
- ・ペットの飼い主が糞を持ち帰り捨てる
- ・最低限のルール
- ・放置自転車の問題
- ・あいさつのルールを子どもに判断させるのではなく、大人が率先してあいさつが自然とできるような雰囲気をつくるのが大切（近所の人には知らない人でもあいさつする vs 知らない人には声掛けもしない）

あらかじめ定めず、地域住民が話し合って決めればよい

- ・ない。上から決めるのはおかしい
- ・地域住民の声を踏まえて、改善すべきところは話し合いを通じて決めていくことが大切。「決めないといけない」と予めわかっているものはないと思う

その他**（地域の組織）**

- ・地域全てを1つの団体にする
- ・決める以前に代表性の確保。そして、地域課題の市民サイドの実践
- ・ネットワーク、任期が終わると変わる
→インターネットやパソコンを活かした記録の保管

（選挙）

- ・選挙の投票は必ず行く
- ・会ったとき、自治会で「今日は選挙です」と言う

（行政への要望）

- ・行政を動かすため声をあげる
- ・行政が課題を考え、住民が参加できるような新しいことを行政が考えて欲しい。まず行政が動いてほしい

（個別のテーマ）

- ・地域猫との関わり方
- ・避難できるよう園田地区会館を残して欲しい
- ・市外の方が訪れやすい市にしたい
- ・子どもが自由に球技などをできる公園がほしい
- ・校区に歩道を確保する

4 地域で担っていくための仕組み

| | 中央 | 小田 | 大庄 | 立花 | 武庫 | 園田 |
|--|----|----|----|----|----|----|
| 一人ひとりがつながる意識を持つ | 3 | 2 | 2 | 6 | — | — |
| 身近なつながりづくり(コミュニケーションを大事にする・あいさつから始める・近所の人と顔見知りになる など) | 4 | 3 | 8 | 3 | — | 9 |
| 各団体とのつながりづくり(横のつながりを大事にする・PTA、老人会など様々な団体と連携する など) | — | — | 1 | 4 | 1 | 7 |
| つなぎ役となる | — | — | — | 1 | — | — |
| しっかりとしたネットワークを形成する | — | 5 | — | — | — | — |
| 話し合い、交流ができる場づくり(多世代が交流できる場・気軽に意見を言える井戸端会議のような場・情報共有ができる場 など) | 2 | — | 3 | 3 | 6 | 9 |
| 小さなコミュニティ(集まり)を積極的につくる | — | 1 | — | — | — | — |
| イベントの開催を通して仕組みをつくる | 4 | 6 | 4 | 8 | 6 | 4 |
| 気軽に参加できる仕組みをつくる | 1 | 1 | — | — | — | — |
| 若者を巻き込んでいく仕組みをつくる | 3 | — | 4 | 2 | — | — |
| テーマを分けて規模を小さくする | — | — | — | — | — | 6 |
| 地域の課題に取り組んでいく中で仕組みをつくる | 9 | — | — | 2 | 6 | — |
| 見守り・見回りに関して(・高齢者を見守る・防犯のための見守りからつながっていく・声かけを行い孤立をなくす など) | 1 | — | 3 | 11 | — | — |
| 防災・防犯に関して(・避難訓練への積極的な参加の呼びかけ・防災組織を強化・防犯パトロールを実施 など) | 2 | — | 2 | 4 | — | — |
| 情報の積極的な公開・共有(ネットの効果的な活用・回覧板などの使い方等を見直し・地域活動の積極的なPR など) | 4 | 2 | 4 | 1 | 1 | 7 |
| 地域の良さを伝えていく | 1 | — | 1 | — | — | — |
| 地域の担い手を発掘・育成する | 1 | — | 5 | 2 | — | — |
| 人材育成(テーマ毎のリーダーを増やす・まちづくりのファシリテーターを増やす・アドバイザーを派遣する など) | — | — | — | — | — | 4 |
| 世代交代が上手くできるような仕組みをつくる | — | 1 | 1 | — | — | — |
| 特定の人に負担が掛からないようにする | 4 | 5 | 3 | 1 | 1 | — |
| 役割分担をしっかりとる | 1 | — | 1 | 1 | — | — |
| 予算を確保する | 4 | 2 | 1 | — | — | — |
| 地域施策の方針をつくる | — | — | 1 | — | — | — |
| 優先順位をつける | — | — | — | — | — | 2 |
| 地域の意見をしっかりと吸い上げる | — | — | 3 | — | — | — |
| 子どもに関して(安全に過ごせる環境づくり・幼少の頃から地域に愛着を持てるような関わり・幼稚園や小学校との密な連携 など) | 6 | 2 | 1 | 7 | — | — |
| 町会等について(町会等のつながりの強化・入りやすい仕組みづくり・NPO などとの連携・組織の体質を時代にあわせていく など) | — | 1 | — | — | 7 | 12 |
| 各地域間で不公平がないようにする | — | 1 | — | — | — | — |
| 今あること(もの)を大切にする | — | — | 1 | — | — | — |
| ルールや決まりをしっかりと守る | — | — | 1 | 1 | — | — |

5 地域で担っていく上での、行政の役割

| | 中央 | 小田 | 大庄 | 立花 | 武庫 | 園田 |
|-----------------------------------|----|----|----|----|----|----|
| 市民の声に耳を傾ける | 2 | — | 2 | — | — | — |
| 親身に市民からの相談に乗る | — | 1 | 3 | 3 | — | — |
| 団体等の意見をよく聴き、適切に対応する | — | — | — | — | — | 3 |
| 市民とできるだけ接する | 3 | 5 | 1 | — | 1 | — |
| 市民との調整 | — | — | — | 1 | — | — |
| 地域でのつなぎ役となる | 2 | — | 3 | 2 | — | 3 |
| 企業や大学等と連携する | — | — | — | — | — | 2 |
| 開放的な地域を目指す | — | — | — | — | 5 | — |
| 話し合い等の場を確保・提供する | 1 | 3 | 2 | 3 | 2 | 5 |
| イベントなどを行い、地域参加への意識を高める | — | — | — | 1 | — | — |
| 地域参画へのきっかけをつくる | 2 | — | — | 3 | — | — |
| 市民主体のまちづくりへのきっかけをつくる | — | — | 2 | — | — | — |
| 情報を積極的かつ効果的に発信する | 9 | 6 | 3 | 7 | 5 | 7 |
| テーマ別に支援する | — | — | — | — | — | 1 |
| 学校や家庭での教育をサポートする | — | — | — | — | — | 2 |
| 専門人材の協力を得て支援する | — | — | — | — | — | 1 |
| 個人や団体の活動をサポートする(後方支援) | 7 | 5 | 6 | 6 | 4 | 4 |
| 財政的な支援 | 9 | 7 | 6 | 6 | 3 | 6 |
| 地域の人材を育成する | — | — | 1 | 1 | 1 | — |
| 人材育成の支援 | — | — | — | — | — | 1 |
| 行政のOB 関係 | — | — | — | 4 | — | — |
| 行政がしくみを定める | — | — | — | — | — | 2 |
| 尼崎市の将来ビジョンを描く | 5 | — | — | — | — | — |
| 各施策の方針を明確にする | — | 2 | 2 | — | — | — |
| 行政の体質を改める | — | 1 | — | — | — | — |
| 他の主体に任せずに、行政が積極的に働きかける | — | 3 | — | — | — | — |
| 自発性や熱意、謙虚さを持つ | — | — | — | — | — | 5 |
| 縦の関係だけでなく横のつながりも重視する | 1 | 2 | 1 | 1 | — | — |
| 市のイメージアップを図り、特に若い世代が住みたいと思えるようにする | — | — | 7 | — | — | — |
| 市民への啓発を行う | — | — | — | — | — | 2 |
| 市民、行政職員の意識を醸成する | 1 | — | — | — | — | — |
| ルール・マナーを守るように促す | — | — | — | 1 | 2 | — |
| 町会等について | 6 | — | — | — | — | — |
| 地域区分について | — | — | — | — | 2 | — |

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

身近なつながりづくりについて

- ・参加、協力してもらう
- ・ヒューマンネットワークづくり
- ・マンションの人たちとの交流
- ・マンション組合との連携

一人ひとりがつながる意識を持つ

- ・積極的に声をかける
- ・声かけ運動
- ・住民の意識

話し合い、交流ができる場について

- ・話し合う場づくり。町会のオープン化
- ・参加協力してもらいながら話し合う場を作っていくこと(オープンネットワーク作り)

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・住民の意識、啓発できるような機会、イベントの開催
- ・楽しいこと、面白いことをもっと
- ・誰もが参加できる雰囲気作り
- ・全員参加のイベント開催

気軽に参加できる仕組みをつくる

- ・行事等への参加者増

若者を巻き込んでいく仕組みをつくる

- ・できるだけ若い人の加入を進める
- ・若者、転入者の定着率を上げるコミュニケーション
- ・会則を持って行って入会を促す

地域の課題に取り組んでいく中で仕組みをつくる

- ・地域ごとの連携が必要である
- ・自主的なボランティア活動への参加
- ・行事を知りできることには参加する
- ・町会組織の活性化
- ・町会等への行事参加増
- ・社協活動
- ・各地域での団体との懇談会を開催
- ・他地域との懇談会も必要かな
- ・各地域のイベントで相互参加して「繋がり」を作っていく

情報の積極的な公開・共有について

- ・各地域の活動内容を知ってもらう為の活動。(ネット、チラシ)
- ・活動を知らせる(子どもの頃から住んでいて知らなかった人あり)
- ・見える化、オープンに
- ・情報を知る

地域の担い手を発掘・育成する

- ・やる気のある人の発掘

特定の人に負担が掛からないようにする

- ・可視化
イベント等の準備スタッフ募集、活動報告を回覧板で知らせる
会長らは、町内の人に挨拶して顔を覚えてもらう(大変?)
- ・負担減
町内会等で、コピーや配布等、雑務だけする役を作ることで会長の負担減。人数が増えるので可視化にもなる
- ・お互いに気遣う心
- ・行ける人が自主的に行く。ボランティア精神

役割分担をしっかりとる

- ・1人あたりの負担減(=人数増)

地域の良さを伝えていく

- ・尼崎の魅力づくり

見守り・見回りに関すること

- ・自治会と学校PTAの連携(見守り、マップづくり)

話し合い等の場を確保・提供する

- ・プラットフォームづくり

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・市報以外にも地域に根ざした広報を
- ・地域活動を知らせるホームページ
- ・地域の活動を分かりやすく説明するHPなど
- ・市報や、市HPでも、分かり易く説明する
- ・女性の協力を得る為の広報、援助
- ・情報の提供
- ・成功モデルの紹介
- ・成功事例の公表

市民とできるだけ接する

- ・市職員は市内に住むべきだと思う
(全市町村で、町づくりとしてPR隊を発足し行っている)
- ・市職員が地域に居住する
- ・行政として地域行事に積極的に参加

市民、行政職員の意識を醸成する

- ・「自助、共助、公助」の意識を高める

地域参画へのきっかけをつくる

- ・色々な世代、市民の方が、尼崎市の活性化に関心を持てる様、また関われるきっかけを作る仕組みを作っていただきたい
- ・公民館の無料BAR化(お酒を飲めない人にはお茶・休憩?)

市民の声に耳を傾ける

- ・市民の声を聞き、現状を知る
- ・今日のようなタウンミーティングが必要

地域でのつなぎ役となる

- ・かゆい所へ手が届く存在に(例:いつもゴミをきちんと出していないマンションにカラスが群れている場合、市が強制力を発揮して欲しい)
- ・行政からの指導。社協に入りましょうなどのアナウンスを行う

個人や団体の活動をサポートする(後方支援)

- ・細やかな応援
- ・人材づくり支援
- ・公民館の開放
- ・地域振興センター機能の強化としてファシリテート力のアップ
- ・地域活動へ優先的に場所の提供
- ・ボランティアを行っている人への優遇措置(感謝状等)
- ・頑張っている人への対応(感謝状等)

縦の関係だけでなく横のつながりも重視する

- ・そのためには(地域ごとの連携を図るためには)、例えばSNSの活用を一つの手段と考える。地域ごとに非公式のSNSを用いて、随時市役所がそれらの意見で必要事項をブラッシュアップしていく

財政的な支援

- ・補助金、助成金、協力金の充実
- ・資金の提供
- ・町会、自治会への市からの補助金を!
- ・補助金、助成金、協力金を出して
- ・補助金、助成金の使途が厳しすぎる
- ・予算の活用をもっと自由性を持たせてほしい
- ・地域の福祉にかかる補助金を分かりやすく、使いやすく
- ・民生費を減らさないで
- ・各種補助金の使途に制約緩和を

尼崎市の将来ビジョンを描く

- ・尼崎市を魅力ある市に!
- ・長いスパンで尼崎市をどういう町にしたいか考えて欲しい。キャラクターを作るとか、何か箱物を作るとか、そういう安直なものではなく、例えば緑の多い町とか
- ・「尼崎といえばこれ」というような魅力のあるものを創る
- ・尼崎市のことをもっと考えて欲しい
- ・長期ビジョンが描けていない

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

子どもに関すること

- ・子どもの時から地域に愛着を持つ機会作り
- ・自治会、PTA との連携でのマップ作り
- ・幼稚園、小・中学校との関係を密にして、町会役員へのステップとし、未来の役員候補を見つける
- ・全員参加型イベントの開催 (PTA)
- ・幼稚園、小中学校との関係を密にする⇒次期、役員候補を見つける
- ・PTA 等のつながりを拡大活用

防災・防犯に関すること

- ・警察、防犯、補導委員による地域パトロールの実施
- ・防犯パトロール (高齢、若年)

予算を確保する

- ・町会での予算が少ない
- ・町会での予算がほしい
- ・資金づくりで新聞回収、資源の回収など協力
- ・行政からの「お金」

その他

- ・毎回出てくる仕組みづくりですが、よく分からない
- ・機会を多くする
- ・趣味の要求を掴むこと
- ・尼崎市においては当面、地域割は連協単位という今のプランでいい

町会等について

- ・社協の入会等は回覧等で市民に通達をして欲しい
- ・福祉協会についての PR を希望
- ・市議会、社協、民生委員の連携を明確にする
- ・社協の役割を明確にする
- ・単協、連協に全加入をすすめられないか
- ・(単協・連協) 全加入を進める為のアクションをして欲しい

その他

- ・自転車交通ルール講習会
- ・高齢者いきいき事業
- ・話がそれているかも？ですが公園のゴミ箱の必要性？
- ・子どもの学力向上
- ・住民が会おう、触れ合う会館を減らさないで

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

身近なつながりづくりについて

- ・声かけ、あいさつをする
- ・コミュニケーションの大切さ
- ・顔と名前が一致できるように日頃からあいさつをし合う

一人ひとりがつながる意識を持つ

- ・つながりを大切に
- ・仲間づくりへの意識と互いの情報共有

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・身近に参加できる機会をつくる
- ・行事の手伝いは住民を巻き込む
- ・楽しいこと、面白いことを企画
- ・地域がつながるお祭り
- ・地域住民がつながることのできるイベント
- ・地域全体で参加できる行事で輪を広げる

気軽に参加できる仕組みをつくる

- ・自分の好きなことを好きな時間に行うことができれば理想的

情報の積極的な公開・共有について

- ・情報をどう伝えていくか
- ・情報を全市民（自治会加入者）が同じように伝わるよう努力をしてほしい

世代交代が上手くできるような仕組みをつくる

- ・役員が高齢化しているので、若い後継者にスムーズにバトンタッチして現状を維持していく

特定の人に負担が掛からないよう、役割分担をしっかりとる

- ・公務を優先させ、負担にならないような組織にする
- ・兼任しすぎ
- ・負担を減らす
- ・町会のわかりやすい明文化されたルール（余計な負担を減らすため。入ったら役を押し付けられる恐怖感をなくすため）
- ・役員になりたがらない

しっかりとしたネットワークを形成する

- ・町会を中心とした各団体とのつながりを強くする
- ・様々な団体が連携していけるネットワークを確立する
- ・他団体との連携や連絡がない
- ・仕組みをつくりなおす
- ・連携する

子どもに関すること

- ・子どもが安心して過ごせる場所をつくってほしい
- ・子どもが過ごしやすい場所を増やす

予算を確保する

- ・地域を担う人の善意に頼ることなく、ある程度の報酬を出したらどうか
- ・ボランティアが良くない。手当てを出すこと

町会等について

- ・自治会のつながりの強化

小さなコミュニティ(集まり)を積極的につくる

- ・色んなコミュニティづくり

各地域間で不公平がないようにする

- ・地域差があるので同じにしてほしい

その他

- ・地域行事に行政の参加を依頼したら快諾してもらおうようお願いしたい
- ・ボランティア、人
- ・役員のネックの部分を取り除く。1人1人の専門部分をもって参加してもらおう（自慢する点を広めてもらう）
- ・つどいの広場、サロンの継続
- ・「できること」を見つける
- ・生きがい、喜びの創出
- ・相互理解（町会内、町会内外）

話し合い等の場を確保・提供する

- ・場の提供
- ・タウンミーティング等、市と住民が関わるイベントを増やす
- ・今まで以上に本当の一般市民（どこかの役員ではない方々）を対象とした集まりがあれば良いと思いました。もっともっと今回のような集まる場、イベントをしてほしい

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・情報発信、方法を考える
- ・徹底した情報の開示、共有により税金の使い方に対して市民の共感を得ること
- ・PCがなくても住民に伝わる情報源（市報、回覧板以外にも）
- ・住民への広報を
- ・行事の紹介
- ・町会の広報

市民とできるだけ接する

- ・地域に入ってきて一緒に活動する
- ・地域の中に入っていき、お互いの情報を収集する
- ・行政のつながり。市役所の顔が見えない
- ・地域との連携、サポート
- ・市職員は市内に住みましょう

個人や団体の活動をサポートする(後方支援)

- ・地域で役をしている人に対して、お願いをするだけでなく、サポートをしてほしい
- ・地域活動のルールや内容を定める際のファシリテーターの派遣
- ・活動の拠点を提供
- ・バックアップ、サポート
- ・社協に頼らない自治会をサポート

縦の関係だけでなく横のつながりも重視する

- ・問題が起こった時に、行政に繋いでも、各分野に細分化されてやりにくいことが多い。今後、地域から吸い上げた問題をどの部署がどのように対応していくのか、交通整理していく役割を果たしてほしい
- ・業務の縦割り。地域の会長との顔見知りでない

財政的な支援

- ・活動広報のための広報にかかる費用を保証（インク、紙代）
- ・ボランティアであっても費用はかかるのでそれなりの援助を（使い方を制限しない）
- ・資金援助
- ・地域活動の助成は使いやすいものにする
- ・使う側の実情に合った補助金制度（弁当×、材料○など）
- ・補助金の使い方を限定しないようにしてほしい
- ・税金の使い方を公平に

親身に市民からの相談に乗る

- ・サポート相談業務

行政の体質を改める

- ・行政体質の改善。行政課題と他の課題を区別することのない柔軟な対応を。数字という評価にこだわらない住民との自治会活動への協働事業。フットワークを軽くする

各施策の方針を明確にする

- ・方向をはっきりさせる
- ・地域とは別に尼崎市も他の自治体の政策や雰囲気には追従しない（例：プレミアム商品券など）

他の主体に任せずに、行政が積極的に働きかける

- ・社協に任せない
- ・形式だけの行事の消化をしない
- ・加入率アップの工夫

その他

- ・若い人がボランティア活動をするための時間を法的に定める
- ・成果は「数字」だけじゃない
- ・タイムリーな指導
- ・住民レベルに合わせた働きかけ

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

身近なつながりづくりについて

- ・あいさつの励行を推進する
- ・隣の人と信頼関係
- ・近所との方とのあいさつ
- ・声かけする、特に高齢者に
- ・顔を知ってもらう
- ・日頃より良好な近隣関係を築く（顔をつなぐ）
- ・ご近所さんに関心を持つ
- ・近所付き合い。両隣が上手く付き合っていたら助け合いができる

一人ひとりがつなげる意識を持つ

- ・あいさつの声があちこちから聞こえるまちに。市の方も元気に活動お願いします
- ・当事者意識

話し合い、交流ができる場について

- ・多世代の交流の場を
- ・高齢者が地域活動できる場所
- ・生活に役立つ情報、コミュニケーションの場を増やす

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・新しい企画で参加者を集める
- ・町会での行事に参加することによって知り合いをつくる
- ・興味があることを開催する
- ・参加しやすいサークルをつくる

若者を巻き込んでいく仕組みをつくる

- ・若者の活躍
- ・若い人たちが参加していくことが必要
- ・現在、地域でカラオケ大会、グラウンドボールなどを行っているが、若い人にもっと多く呼びかけたい
- ・若い人、新しい人を大切にする

情報の積極的な公開・共有について

- ・地域活動を PR する
- ・地域活動の周知徹底
- ・個人情報の問題もあり難しいかもしれないが、ある程度の情報は持っていて良いのではないか
- ・地域、近所の情報

地域の担い手を発掘・育成する

- ・地域の人材をもっと活用する
- ・リーダーのリストづくり
- ・地域の人材発見
- ・地域をまとめることができる気さくなひとをつくる
- ・人材を募る

世代交代が上手くできるような仕組みをつくる

- ・次世代への引継ぎができない

各団体とのつながりづくりについて

- ・学校との結びつき

特定の人に負担が掛からないようにする

- ・負担を減らさないと続かないかもしれない
- ・負担を減らしていく
- ・町会に仕事が多すぎる

役割分担をしっかりとる

- ・地域と市の役割など仲良く上だけの話を下ろすことなく考えてほしい

見守り・見回りに関すること

- ・高齢者の見守り活動
- ・巡回し、声かけを行う
- ・高齢者の手助け、介護

防災・防犯に関すること

- ・防犯、避難訓練への積極的な参加
- ・災害時の避難（高齢者等の助け）

子どもに関すること

- ・大庄が子どもにとってふるさとと思える町になるように

話し合い等の場を確保・提供する

- ・元気なお年寄りが多いのもっと活動できる場があれば良いと思う
- ・親の仕事に子どもが集まれる場所の提供

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・情報ツールを活用（LINE、SNS）
- ・情報の共有を楽にすること
- ・市の情報だけでなく、地域の情報をもっと知りたい。市のホームページを見ても地域の情報までわからない

市民とできるだけ接する

- ・住民と接する機会を多く持つこと

地域の人材を育成する

- ・ボランティアの教育

市民主体のまちづくりへのきっかけをつくる

- ・市民から動き出す仕組みをつくる
- ・市民権を根付かせるような仕組み

市民の声に耳を傾ける

- ・民意を聞いてほしい
- ・小単位での懇談会

地域でのつなぎ役となる

- ・住民との交通整理
- ・地域同士をつなぐ
- ・行政と地域の連携（特に災害時）

個人や団体の活動をサポートする(後方支援)

- ・地域連協、単組への支援強化
- ・活発な活動への支援。メリハリをつけて
- ・行政は地域活動へのアドバイス
- ・自発的活動の支援
- ・サポート
- ・サークル支援の窓口を広げていただく

縦の関係だけでなく横のつながりも重視する

- ・横の交流。縦だけでなく

財政的な支援

- ・地域の施設や人員を縮小するなら、地域の自治に切り替える予算と人員を回す覚悟が必要になるのではないのでしょうか
- ・お金の支援
- ・助成金、補助金申請の簡素化
- ・バス代など補助の仕組みはあるが不足
- ・地域に必要なものはお金
- ・自治会活動に資金援助

親身に相談に乗る

- ・甘えられやすいように、SOS を出しやすいように
- ・困ったときに相談できる窓口をボランティアでアピール
- ・相談（仕組み等）

市のイメージアップを図り、特に若い世代が住みたいと思えるようにする

- ・センタープールを廃止か、もっと他へ発信するものを設立考えてほしい。そうすると尼崎に住もうとする若者が増える
- ・若い人が住もうと思うまちづくりを考える
- ・若い人が住みたいと思う町にしていきたい
- ・イメージを悪くする報道を行わせない
- ・武庫川を綺麗にして人が訪れるように
- ・武庫川を美しく遊べるように綺麗にしたい
- ・地域環境の整備

各施策の方針を明確にする

- ・まちづくりプランが必要
- ・地域にあった方針、政策の提言

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

地域の意見をしっかりと吸い上げる

- ・地域の意見を汲み上げる
- ・地域での活動を行う場合の相談窓口の一本化
- ・相談できる人がいること

地域施策の方針をつくる

- ・みんなが住みたいまちづくりの方針をつくる（環境整備、若者が集うまちなど）

今あること(もの)を大切にす

- ・極力お金に頼ることなく、個々が持っている力（店舗などの場所提供であるとか）を使い、地域地消

ルールや決まりをしっかり守る

- ・お互い人の迷惑になるようなことは避ける（犬猫の飼い方など）

地域の良さを伝えていく

- ・大庄は、旧国道、武庫川、神社、お祭りなど歴史が素晴らしいので大切にして伝えていく

予算を確保する

- ・予算は活発な活動に手厚く。メリハリをつけて

その他

- ・個人で実行する
 - ・今の社協でいい？
 - ・目的、目標
 - ・「知ること」知らないだけで誰かがしていないか？
 - ・中身を再検討
 - ・地域の活性化
 - ・ピラミッド型の仕組みだけではなく、色々な施設等も参加できれば
 - ・情報を教えてくれるところがはっきりしていない
 - ・違いを認め合う
 - ・住民参加でまちづくりプランを考える
 - ・若い人たちにもわかりやすい、優しい人たちになる
 - ・いつも仲良くできるように、自分にも他人にも優しく思いやりを
 - ・病児保育（場所が少ない）
 - ・地域の市場等の活性化
 - ・育友会、補導員、民生、社協連絡会も必要か
 - ・みどりのまちづくりに貢献したい
 - ・自転車専用道路のあるまちづくり
 - ・問題の共有
- (町会等について)**
- ・町会の組織を活かす
 - ・社協等各種団体が一緒になって行動していかねば。社協の人はみんな年配の人が多い
 - ・活動を狭い小学校単位で
 - ・単組で物事を行うのではなく、連協を中心に行う
 - ・各単組相互の協力体制をより強化する

その他

- ・行政も土日等休日にも取り組んでいただきたい
- ・行政は厳しいところも見せなくてはならないと思います
- ・会長にも定年がいるのでは
- ・レンタサイクルを設置してほしい
- ・行政が地域内にどう関わるか
- ・お年寄りでもできる仕事をつくる
- ・アイデアをもっと出す
- ・空屋等の取組（空屋の活性化）
- ・ペット条例は市にありますか？飼う人のマナーが割るくて困っています
- ・まず中学校の給食を始めてほしい。中学で西宮へ移る人が多い
- ・保育料の見直し
- ・ゴミをなくする活動
- ・子どものいじめの件について疑問あり。学校、親、子
- ・ポット使用で安否判明などグッズを購入

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

身近なつながりづくりについて

- ・近所付き合いをして仲良くしていきたい
- ・近所の方の顔を知る
- ・話し合いがないと近所付き合いにならない

各団体とのつながりづくりについて

- ・地域を越えた横のつながり
- ・町会や子ども会や婦人会との連携
- ・町会とのつながりが希薄
- ・町会同士での行事運営

一人ひとりがつながる意識を持つ

- ・互いに気にかけてあうような意識を持つ
- ・個人個人のつながり
- ・個人とのつながりをどうしていくのか
- ・地域を良くしていきたい盛り上げ
- ・普段から何となくでもつながっておく
- ・1人ではできないからみんなに声かけをする

話し合い、交流ができる場について

- ・情報共有の場づくり
- ・集う場
- ・町会の班長会等で近所で困っている様子などがいないか、話し合える場をつくる

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・つながるきっかけづくり
- ・趣味の会を立ち上げてコミュニケーションを
- ・イベント参加の声かけ
- ・個人一人のつながりがつくりやすいイベントを開くことで情報の共有ができる
- ・まず楽しいことから始めて、良い人間関係をつくる
- ・楽しい集い。カラオケ、グループ
- ・バスツアーの行き先は老人や子どもが参加できるものに
- ・ひまわりグループで種まき

若者を巻き込んでいく仕組みをつくる

- ・学生を巻き込んでもらいたい
- ・若者をどのように巻き込むか

特定の人に負担が掛からないようにする

- ・同じ人に負担がかからないようにしたいけど当番制だと少ししんどいので、部分的に参加できればいいなと思います

地域の課題に取り組んでいく中で仕組みをつくる

- ・高齢者と子どもの貧困や心の問題を見つけられる仕組み
- ・公園の清掃

情報の積極的な公開・共有について

- ・情報を共有する

地域の担い手を発掘・育成する

- ・活動を継続するための担い手確保
- ・協力者が存在している

役割分担をしっかりとる

- ・一人ひとりの役割を持つ

つなぎ役となる

- ・ニーズと資源のマッチング。助けてほしい人と助けてあげられる人をつなげる

見守り・見回りに関すること

- ・高齢者の見守り。65歳以上では多すぎる。70歳以上にすれば(293)
- ・高齢者の見守りは事前に伝えておくこと
- ・防犯夜回り→段々と広がる→知らない者同士が仲良くなる。見守りが自分の楽しみに
- ・見守りサークル
- ・地域の見守り活動の重要性
- ・孤立をなくす
- ・子どもも高齢者も近所の人や地域の手助けが必要
- ・独居の高齢者への生活支援
- ・高齢者への声かけ、安否確認
- ・高齢者の1人住まいをよく承知しておく
- ・地域のつながり、見守り、助け合い

話し合い等の場を確保・提供する

- ・集える場の提供
- ・あらゆる世代の居場所づくり
- ・地域の方が集まり、話し合うことのできる場の提供

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・情報収集、発信
- ・必要となる情報の提供
- ・情報の共有
- ・自治会への入り方を市報等で知らせる
- ・自治会とはこんなんです。みなさんも入りませんか? →市報で勧誘
- ・社協に入ることによる魅力を紹介すること(多くの人を知ることによって、詐欺や押し売り、押し買い等にあわなくなる)
- ・市報をHTML

地域の人材を育成する

- ・まちのファシリテーターとなる人材を育てる

ルール・マナーを守るように促す

- ・個人的なマナーの問題についても、それをやめさせるような啓発活動が必要

地域参画へのきっかけをつくる

- ・呼び水の役割
- ・きっかけづくり
- ・最初から地域で自発的に何かするという事は、難しいと思うので、イベント等の仕掛けを使って意識を高め、導くことが大事

地域でのつなぎ役となる

- ・コーディネーターとして町会を支援してほしい
- ・まちづくりのファシリテーター役をする

個人や団体の活動をサポートする(後方支援)

- ・場所や資金等における活動の後押し
- ・周知するときの支援
- ・仲間づくりの支援
- ・行政が団体(NPO)などへバックアップが必要
- ・高齢者が小さい子どもの世話をする(ボランティア)。バックアップは行政
- ・スーパーバイザー的役割

縦の関係だけでなく横のつながりも重視する

- ・縦型でなく横型により連携プレイをする

財政的な支援

- ・連協での活動費の費用負担をしてほしいとのこと
- ・資金の援助
- ・集会場の費用免除
- ・負担費用をもっと提供してほしい
- ・予算/有権者=1人分の予算 ⇒地域の好きな事業へ配分
- ・お金の支援

親身になって相談に乗る

- ・相談に乗る
- ・地域からの相談窓口
- ・問題が出てきた時に具体的なアドバイスをする

市民との調整

- ・町会に入っていない市民との調整

行政のOB関係

- ・行政のOBの必要性
- ・行政のOBの方、応援を
- ・地区におられる行政からのOBを応援する
- ・地元の役所等のOBがすすんで活動できるシステム

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

防災・防犯に関すること

- ・災害時の助け合い
- ・防災組織を強化する
- ・防犯活動
- ・防犯灯を明るく。女性、子どもも夜道が安心

子どもに関すること

- ・子どもが安心して遊べる環境づくり
- ・子育て支援。情報交換
- ・子どもの見守り（通学時等）
- ・ターゲットは子ども
- ・知らない人と話さない→子どもと仲良しに
- ・町会の活動に子どもも参加
- ・仕事のため、子育てに手がまわらない

ルールや決まりをしっかり守る

- ・最低限守るべきこと

その他

- ・ボランティア預金
- ・自治会と同調して別組織をつくる
- ・フラットな組織も良いが、意思決定に不安がある
- ・地域振興センターの名前を変える
- ・活動に参加するには友人が必要？
- ・うさちゃんクラブ！とかも
- ・信頼できる人をどう見つけるか
- ・ありがとうのお礼の言葉は嬉しい
- ・どんどん地域に降りてきて話し合ってください
- ・駅前の放置自転車
- ・他人事になっている、有事のことを考えていない、コミュニケーション不足。以上のことを解決できる仕組みづくりが必要
- ・プランの中にある連協単位の開かれた代表性のある仕組み
- ・町会長としっかりと打ち合わせ
- ・自分ができる範囲で参加できるようなまちづくり
- ・協力的に活動に参加
- ・世代間交流 →見守り、各行事⇒年代限定せず
- ・パトロールの実施（昼・夜）

（地域の交通安全対策）

- ・交通ルールを守る
- ・小学校で半年に1回程度、交通マナー教室
- ・チャレンジ100（安全運転）
- ・自転車専用レーンの件を話し合いました。専用レーンが増えていくことは、とても良いことだと思いますが、専用レーンへの駐車車両があり、自転車で走りにくいところがある

その他

- ・見守り隊の目標が明確でないとのこと
- ・窓口では気持ちのこもった対応をする
- ・「地域振興センター」というわかりにくい名前をわかりやすく、親しみやすい名称に変える
- ・このような行事に市役所職員が自発的に参加してくれるようになれば良いと考えます
- ・問題は関連している
- ・「プランの中にある連協単位の開かれた代表性のある仕組み」を自治基本条例で明示することが必要
- ・小学校に地域拠点をつくる
- ・変化には時間がかかると認識する
- ・防犯カメラの設置
- ・高齢者と子どもの問題の窓口
- ・ルールとは違っても必要なことは受ける窓口を設ける

（自転車について）

- ・駐輪場を増やす
- ・自転車を買うときにマイナンバー
- ・自転車ルール講習会

③ 地域で担っていくための仕組み

行政の役割

各団体とのつながりづくりについて

- ・横のつながり

話し合い、交流ができる場について

- ・人が集える拠点の確保
- ・若い世代との意見共有ができる場をつくる
- ・若い世代が意見を言う場をつくる
- ・町内会や自治会に所属している人々の中にも、地域を良くしていきたいと思われている方は本当にたくさん存在している。そういった人々が自由に意見を交換できたり、気軽に相談を行うことのできる雰囲気
- ・能動的に動かなければ情報が入ってこない → 情報交換また共有できる「場」づくり
- ・小さなコミュニティでの井戸端会議

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・市民が参加するコミュニティづくりは、自発性を求めても現状では難しいので、さまざまなイベントなどを計画して、続けられる仕掛けをつくるのが大事
- ・子どもが主役となる行事を企画し、実施する
- ・祭りやイベントを企画、実施する
- 準備中のたわいない会話からお互いのことを理解したり、人間関係ができていくような気がする。1つの目標に向かい努力し、何かを達成することで連帯感が生まれてくるのではないか
- ・ラジオ体操（きっかけづくり）
- ・新しいことを企画
- ・イベントを広げる

地域の課題に取り組んでいく中で仕組みをつくる

- ・世代を超えた付き合い（学校へのお年寄りのボランティア、地域の方の安全パトロールなど）が増えたら、次第に広がっていくと思います
- ・防災をきっかけにする
- ・見守り
- ・自転車の安全走行のPR、不法駐輪の取り締まり
- ・自転車に関する子どもへの教育、啓発
- ・自転車まつり

特定の人に負担が掛からないようにする

- ・役割を順次担ってもらう

情報の積極的な公開・共有について

- ・地域に密着した情報を流す仕組みづくり

町会等について

- ・自治会と社協の協働
- ・やりたい人が入りやすい仕組みづくりを
- ・子ども会など、行事を盛んに
- ・子どもが自ら企画する、手伝いをする人をつくる
- ・社協の役割強化
- ・力になってくれる人のリストアップ
- ・地域のとりまとめ

その他

- ・イベントが終われば来ない。来るのはイベントのみ
- ・防犯カメラ
- ・学校へ出張講座など伝える役割を担う（自治会（町会）の問題点）
- ・回覧板が回るのも自治会メンバーのみ
- ・敷居が高いイメージ
- ・成果が見えないことが問題。面白そうと思えば入る
- ・校区と自治会の区が違う

話し合い等の場を確保・提供する

- ・地域の方々が気軽に意見交換をすることができたり、気軽に相談を行うことのできる機会（今回のタウンミーティングのような機会）をつくっていく
- ・場所の確保

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・地域行事の情報発信
- ・寺町や南部だけでなく、北部の魅力をアピールする
- ・もっと情報が届くようにする
- ・情報は口コミが一番
- ・自治会加入者への情報提供が難しい。地域のためにしている活動を転入者が理解してくれない。この部分を行政が担ってほしい

市民とできるだけ接する

- ・地域のみなさんとのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築く

地域の人材を育成する

- ・地域のことなら何でも知っているコンシェルジュを育成する

個人や団体の活動をサポートする

- ・地域活動をやりたい人と、担い手を求める人とのマッチング
- ・やる気のある人に積極的に支援（補助）
- ・子育ての友達づくり（ベビーサークルなど未就学児などの）の案内を、市内の産院や図書館、公民館などに置けばどうでしょうか
- ・地域のニーズを把握し、行政としてできることを考える

ルール・マナーを守るように促す

- ・つくったルール、マナーの徹底策
- ・動物の糞等の処理

地域区分について

- ・社協、小学校区、地域区分の問題が根深いと感じました。地域区分の整理は行政の役割かと思いました
- ・行政区の明確化

財政的な支援

- ・地域が使いやすい形の補助金
- ・広く予算をばら撒くのはダメ
- ・お金のサポート

開放的な地域を目指す

- ・昔からの居住者でグループができている
- ・引っ越してきて、仲間に入りにくい
- ・新しい人が入りやすい環境（ルール）づくり
- ・コミュニティの支援
- ・できること、できないことをきちんと説明し、お互いがそれぞれの立場を考えたまちづくりを進めていく

その他

- ・行事等に参加した人にポイントを付与し、表彰する（ポイント集めが好きな人は多い）
- ・「つたえばなし」の第2弾をつくる
- ・ARカメラや掲示板の設置
- ・企業の誘致
- ・市イベント（あまり経費のかからないもの）があったらよいと思います
- ・自治会長が報われる制度があれば
- ・自治会への参加を推奨
- ・子育てなどの悩み相談所が必要（あればPRすべき）
- ・仕組みの大枠を決める

（防災について）

- ・防災、武庫川堤防大丈夫か？
- ・防災ラジオの活用

（自転車について）

- ・駐輪場の確保
- ・まずは武庫之荘駅周辺に駐輪場をつくる
- ・自転車税の導入
- ・放置自転車条例を
- ・放置自転車。条例で厳しく取り締まり

③ 地域で決めていくための仕組み

行政はどう関わればよいか

身近なつながりづくりについて

- ・近所で情報交換、近所の目が大事
- ・近所の人の顔と名前を覚える
- ・近所単位との顔が見えるコミュニティづくり
- ・防犯対策のために人のつながりが必要
- ・もう少し顔を知る事柄を増やすようにどうしたら良いかを考える
- ・引っ越してきた人に気軽に声を掛けられるような雰囲気づくり
- ・あいさつウィークをしてみても？
- ・あいさつを推進する地区では犯罪が少ない
- ・相互理解（隣は何をする人ぞ）

各団体とのつながりづくりについて

- ・各団体との連携
- ・各団体のネットワーク（PTA、老人会、婦人会、自治会・社協、NPO、子ども会、防犯、警察）
- ・自治会、子ども会、婦人会、老人会、企業など、みんなで祭りを実施する
- ・地域ごとのネットワークづくり
- ・各種団体が横につながれるようなネットワークづくり
- ・個々のネットワーク作成
- ・各団体のネットワークを上手くまとめる仕組みをつくっていく

話し合い、交流ができる場について

- ・場所（機会）の提供
- ・公民館、学校、幼老複合施設、公共施設での話し合いの場の充実
- ・衆議の場
- ・全ての人が参加できる開かれた場の確保
- ・市議会、委員会などと協力し、調整していくための集会等を定期的に設ける
- ・横のつながり、集まれる場をつくる
- ・子どもとお年寄りの交流する場
- ・人との関わりの場（集団登校、参加できるプログラム）をつくる
- ・教えあい、話し合い暮らしあう地域（安心安全なまちづくり・見守りなど）

イベントの開催を通して仕組みをつくる

- ・イベントで交流する
- ・盆踊りへの参加人数を増やす
- ・定例会など、行事のときに話し合い
- ・地域の行事などで集まるきっかけづくり

テーマを分けて規模を小さくする

- ・課題別にプロジェクトをつくる
- ・みんながやりたいことを考えてやりたい人を集める
- ・団体などを小さくして、小さい集まりをつくっていく
- ・小さな単位での自治
- ・“集まり”（大きなものでなく参加しやすい規模のものから）を単発でなく、定期的に開催してなじみの関係をつくる
- ・参加しやすい規模のものから参加できたらよい

優先順位をつける

- ・コミュニティを進めるのに優先を決める仕組み
- ・優先順位をつける

人材育成について

- ・自治体全体で、問題を共有し、色々なテーマのリーダーを
- ・つなぎ役として、まちづくりファシリテーターを増やす
- ・テーマ、イベントごとのリーダーは行政と直接つながりを持つ
- ・アドバイザーの派遣

情報の積極的な公開・共有について

- ・情報の共有化。回覧板、市報、会報をつくる、または読む
- ・一方通行の紙でのお知らせではなく、口で伝える
- ・ネットを活用する
- ・HPでの情報公開（各コミュニティごとに）
- ・各コミュニティでHPでの情報公開、スマホで見られるのが重要
- ・若い世代も年配の世代もわかりやすく情報が得られるように1つの方法ではなく、LINEや回覧板等併用できれば…意見交換ができる場が作れるとよいのでは？

市民への啓発を行う

- ・協働の市民全体としての地域コミュニティへの理解
- ・小学校と自治体とで「あいさつキャンペーン」を取り入れる

学校や家庭での教育をサポートする

- ・学校でコミュニティの教育をしていく
- ・すでに決まっていることを守る規範意識の教育

地域でのつなぎ役になる

- ・各団体のネットワーク集会
- ・各団体の連携
- ・ネットワークの集約

話し合い等の場を確保・提供する

- ・今日のようなタウンミーティングに参加して話す
- ・場所づくり（会議）
- ・地域で活動する地区会館など場所の確保
- ・会場の提供
- ・仲間、時間、空間のサポート

後方から支援する

- ・住民に委ねる
- ・基本は後方支援（ただし、関心を持ち続けること）
- ・必要なときに必要なアドバイスや支援をしてほしい
- ・市民の新しい動きを積極的にサポートする

行政がしくみを定める

- ・仕組み（枠組）は行政がベースをつくる
- ・行政が研究すべき

テーマ別に支援する

- ・行政とテーマ別に個別に調整していくことが大切だと思います

自発性や熱意、謙虚さを持つ

- ・決められたことをするのではなく自分たちで決める
- ・イベントボランティア
- ・熱意のある担当者
- ・理屈ばかり言わない
- ・偉そうにしないようにする

財政的な支援

- ・財政の支援
- ・財務的、サポート的な関わり
- ・必要なことに予算をつける
- ・援助できる体制と予算面でのサポート
- ・会館使用料などの補助
- ・前年にやることを決めて、予算が決まっていることが良くないのではないかと

企業や大学等と連携する

- ・企業と行政の連携とイベント
- ・大学との連携、一般へのイベントを合同で行う

人材育成の支援

- ・間接的なリーダーづくり

専門人材の協力を得て支援する

- ・大学等、専門分野の人の協力

情報を積極的かつ効果的に発信する

- ・市報、市議だより等の電子化、地区ごとのHP掲示板
- ・情報の発信（インターネット等の活用）
- ・コミュニティ活動の広報
- ・自治会などの情報を届ける
- ・地域コミュニティの情報を管理し、適切に支援してほしい
- ・課題解決への情報の支援
- ・課題解決のための情報提供

③ 地域で決めていくための仕組み

行政はどう関わればよいか

町会等について

- ・町会に入るよう呼びかけをする
- ・会に入会する（町会など）
- ・町会に入る必要性を示す
- ・地域の声を受けとめるところが必要
- ・町会とNPOが協働する（地縁とテーマ）
- ・「町会＝社協」という尼崎独特の体制は見直さなければならないかもしれない。地域の活動は町会に入っていないと情報が伝わりづらい、あるいは参加しづらい。町会は町会として存続させ、町会に入っていないでも参加したり、地域の声を発信し、それを受けとめられるよう社協には頑張ってもらいたい
- ・町会が開かれた組織になっていない？
- ・町会と社協のあり方を見直す
- ・心ある人を集める。会の組織を変えていく
- ・昔から続けていることを時代に合わせて変える
- ・現状の社協だけでなく、小さな単位での自治組織へ一歩踏み出す
- ・地域住民の1人の困りごとを全体の困りごととして捉えるような柔軟な組織にしておくこと。地域の課題を整理する組織

その他

- ・定期的な見回り
- ・家族が勇気をもって認知を伝える
- ・認知症の徘徊者の情報の共有
- ・自然を守る取組を市民に知らせる
- ・地域の組織の中心はどこなのかを明確にする
- ・子ども（学校）のネットワークが少ない
- ・弱者の声を聴いてほしい
- ・子どもに不審者と一般の大人の見分け方を教える
- ・子ども会の行動等を小学校登校班にも伝える
- ・外灯を明るいものに変える
- ・時間の余裕
- ・人の情けがとても大事
- ・親が参加する地域参加は選挙だけか

団体等の意見をよく聴き、適切に対応する

- ・必要、不必要をよく見極めていただいて各種団体などの意見を聴いてほしい
- ・地域からの問合せ、確認に迅速に返答する
- ・町会（会員のみ）＝社協（住民全体）を都合よく使わないようにしてほしい
例：依頼事をした時に、「会員のみ」となることは仕方がない（？）「全住民に」を求めるのであれば、加入率が低いことを社協任せにしない、など

その他

- ・新しい施設等の誘致と新しい企画
- ・企画制作支援
- ・市民レベルで幼老複合施設
- ・パトロールは時代に合ったものやっていく
- ・選挙PRをしっかりとる
- ・公園のトイレを整備
- ・公園の名称を平仮名で
- ・園田の町民の伝えたい「園田」にお金を使いたい
橋で便利→自然安全
- ・ギャンブル性の高い施設が学校教育に影響しないか
- ・ギャンブルの危険性を学校で教育する